

ISSN 0385-0293

# 沖縄県立博物館年報

No. 29



1996

沖縄県立博物館

## 序

平成7年は、「太平洋戦争・沖縄戦」終結50年目で、わが沖縄の金言である「命ど宝」の真意を、かみしめた年がありました。この戦後50年の節目を契機に、県民は「命ど宝」の金言を心にとめながら、沖縄の自然と風土、歴史と文化に対する関心を、持つようになりました。このような県民のニーズに対して、当博物館は「温故知新」、および生涯学習の場として活用されるよう、「県民が学ぶ館」として、博物館事業の充実・振興を図り、努力してきたところあります。

平成7年度は、「太平洋戦争・沖縄戦終結50周年」を主要テーマに据えて、県民のニーズに応えるべく、自然と風土、歴史と文化などを含めた、多種多様な行事を実施しました。

6月下旬から7月下旬にかけて、特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」

OKINAWA REBORN Postwar Life Amid the Ashes of War and the loss of Cultural Assets を開催しました。この特別展は、本県文化財の破壊・散逸の実情、戦争の惨禍と非生産性を強調するとともに、灰塵・廃墟の中で再建・復活される生活文化の実態と、戦後史の変遷を散逸文化財の収集・保存、および復元活動の足跡などで、県民に広く紹介しました。

8月中旬から9月上旬にかけて、「平成6年度・新収蔵品展」を開催しました。展示内容は、「長谷川コレクション」として受け入れた、自然史関係の「シカ類の化石」資料や考古資料、歴史関係資料の「旧波上宮朝鮮鐘（レプリカ）」、終戦直後の「沖縄絵はがき」、民俗資料の「芭蕉絹縞上衣」等、および美術工芸資料の「絹深浅地縞縞上衣」のほか、購入資料の貴重な各種収蔵品も含めて公開し、県民の興味・関心を高めたものと思われます。

小中学校生を対象にした「子ども体験学習教室」が、5月中旬から翌年2月までの、第2土曜日を中心開催しました。まず、「植物標本をつくろう」のテーマで、5月中旬から6月にかけて、館内学習と野外実習を実施しました。7月から8月にかけて、「漆喰でシーサーをつくろう」というテーマで頑張りました。9月から11月までのテーマ「土器をつくろう」では、土と格闘しながら、立派な作品を完成させました。さらに12月から翌年2月にかけて行われた「祭りの仮面をつくろう」では、真剣に取り組む姿を見せてくれました。

当館の活動の一環として、例年実施される「移動博物館」が、11月中旬に渡嘉敷村の中央公民館、および11月下旬に国頭村総合体育館で、それぞれ2日間開催、さらに文化講演会と自然観察会も実施しました。

今後とも当館では、特別展や企画展、文化講座、文化講演会、および自然観察会などを、充実させていく所存ですので、なお一層のご助言、ご協力を御願い申しあげます。

平成8（1996）年7月

沖縄県立博物館長 當間一郎

# 目 次

序	.....	館長 當間 一郎
I、概要		
1 沿革	.....	5
2 施設、設備	.....	7
3 予算	.....	9
4 組織	.....	10
II、入館者数		
1 入館者数	.....	12
2 県内外児童生徒学生団体見学者	.....	15
III、調査研究等の活動		
1 調査研究	.....	17
2 著作論文	.....	19
3 講演等	.....	20
4 職員研修	.....	23
IV、展示活動		
1 常設展	.....	24
2 特別展	.....	26
3 企画展	.....	32
4 移動博物館	.....	34
5 海外での展示活動	.....	41
V、教育普及活動		
1 活動の概要	.....	43
2 博物館文化講座	.....	43
3 夏休み「歩く・見る・作る」教室	.....	45
4 子ども体験学習教室	.....	46
5 ボランティア活動	.....	47
6 博物館を利用した研修	.....	49
7 博物館シアター	.....	50
VI、収蔵資料		
1 収蔵資料現在高	.....	53
2 1995（平成7）年度新収蔵資料高	.....	53
3 1995（平成7）年度新収蔵資料目録	.....	54
4 所蔵国県指定文化財	.....	56
5 収蔵整理事業	.....	57
VII、刊行物	.....	59
VIII、その他の活動		
1 資料貸出	.....	60
2 煙蒸処理	.....	61
3 沖縄県立博物館協議会	.....	61
4 沖縄県博物館協会	.....	62
5 博物館実習	.....	63
6 沖縄県立博物館友の会	.....	65
IX、日誌抄	.....	67
X、関係法規抄録	.....	69

# I 概 要

## 1 沿 革

〔前 史〕 昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創 設〕 昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発 展〕 昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

---

### ―― [主な事項] ――

---

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管となる。

昭和22年（1947）12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管、「沖縄民政府立首里博物館」と改称。

昭和28年（1953）3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。

昭和30年（1955）9月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称。

昭和40年（1965）この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）購入。

昭和41年（1966）10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。  
11月に開館。

昭和47年（1972）2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。

5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。

昭和48年（1973）2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増設。

昭和51年（1976）4月、創立30周年記念式典を行う。

昭和55年（1980）1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。

2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施。

11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。

昭和56年（1981）3月30日付で博物館法に基づき登録。

10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。

昭和57年（1982）5月新たに常設展として自然部門を設ける。

10月、特別展「熊本県・沖縄交流展—熊本の歴史と文化」開催。

昭和58年（1983）11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。

昭和60年（1985）11月、特別展「グスク グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催。

昭和61年（1986）2月、特別展「美術工芸の美を求めて一大嶺薰コレクション」開催。

昭和62年（1987）10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故作家」開催。

12月、企画展「田名家所蔵品展—ある首里土族の400年」開催。

12月、企画展「現代沖縄の陶芸一天野鉄夫コレクション」開催。

昭和63年（1988）8月、特別展「ヤンバルの自然」を開催。

11月、特別展「三線名器 100挺展」開催。

平成元年（1989）11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。

平成2年（1990）1月、特別展「大アンデス文明展」開催。

平成3年（1991）10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。

平成4年（1992）6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。

8月、特別展「沖縄の貝類展」開催。

10月、特別展「琉球王国展」開催。

平成5年（1993）1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。

8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。

平成6年（1994）7月、特別展「子どもの世界」開催。

平成7年（1995）6月、特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。

## 歴代館長

### 〔東恩納博物館〕

大嶺 薫（昭和21・4～28・3）

### 〔首里博物館〕

豊平 良顯（昭和22・12～23・3）

原田 貞吉（昭和23・8～28・3）

原田 貞吉（昭和28・3～30・5）

山里 永吉（昭和30・3～33・8）〔琉球政府立博物館〕

金城増太郎（昭和33・9～36・12）

大城 知善（昭和37・2～44・11）

外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕

大城徳次郎（昭和56・4～58・3）

大城 立裕（昭和58・4～61・3）

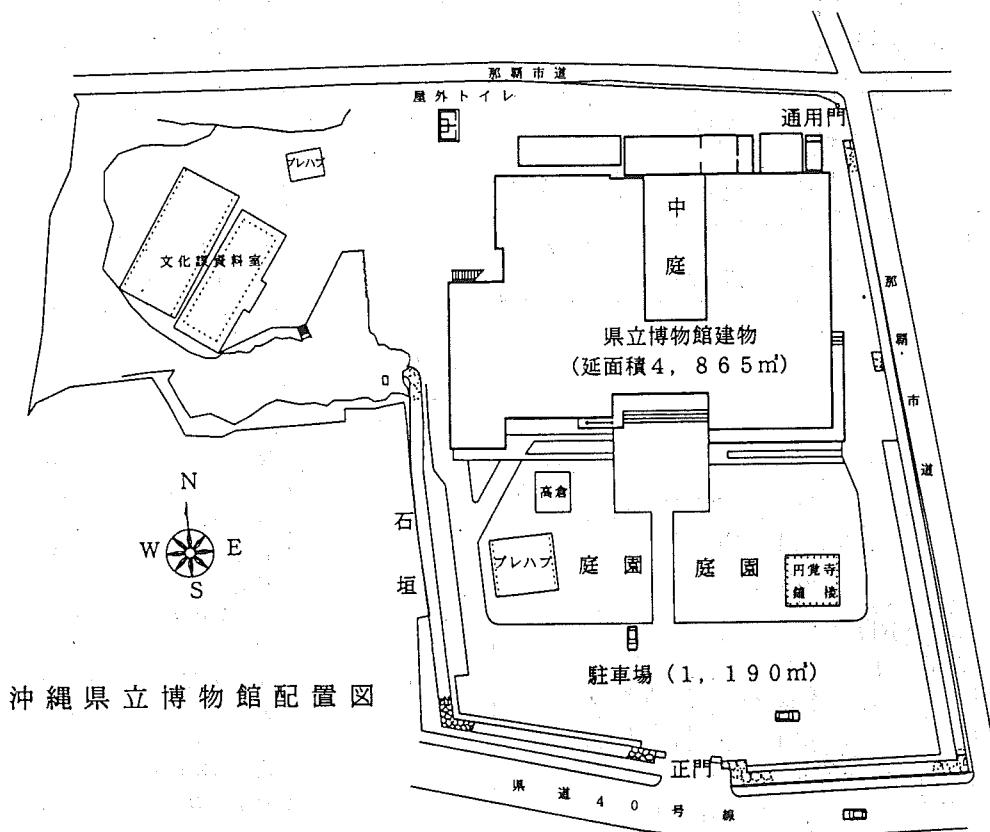
大城 宗清（昭和61・4～平4・3）

宜保榮次郎（平成4・4～6・3）

糸数 兼治（平成6・4～8・3）

當間 一郎（平成8・4～）

## 2 施設・設備



沖縄県立博物館配置図

### 施設規模

●敷地面積	11,267 m <sup>2</sup>
●建物のべ面積	4,865 m <sup>2</sup>
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積	1,590 m <sup>2</sup>
1階	632
2階	958
●ロビー面積	256 m <sup>2</sup>
●収蔵庫面積	858 m <sup>2</sup>
●駐車場面積	1,190 m <sup>2</sup>
●庭園面積	1,612 m <sup>2</sup>
●講堂	632 m <sup>2</sup>
客席数	215席
●空調機能力	

ヒートポンプ式チーリングユニット

125,000Kcal/h×2機

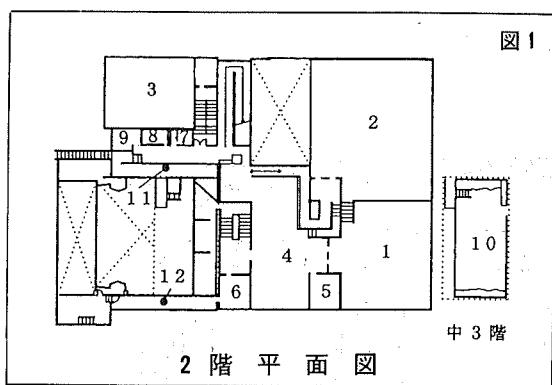
エアハンドリングユニット 6機  
パッケージ型エアコン

56,000Kcal/h×1機  
28,000Kcal/h×1機  
2,000Kcal/h×1機  
8,400Kcal/h×1機  
20,000Kcal/h×1機  
7,100Kcal/h×2機  
1,200Kcal/h×1機  
5,000Kcal/h×2機

### ●変電室

電灯 1φ3W 30KVA×1機  
電灯・動力 3φ4W 100KVA×1機  
動力 3φ3W 250KVA×1機

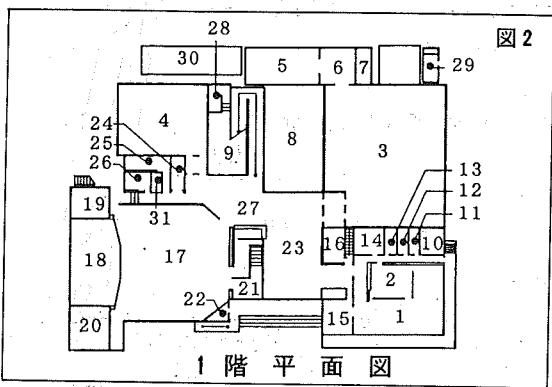
●契約電力..... 207kw



<2階>

番号

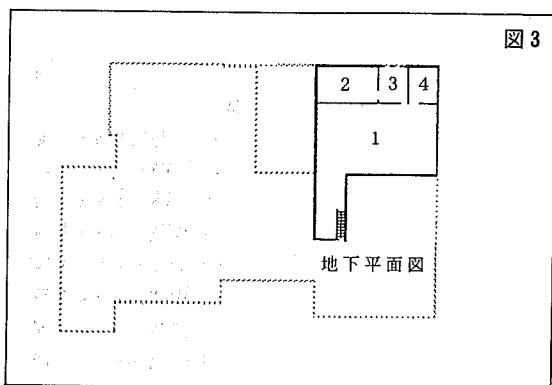
1	美術工芸展示室	265m <sup>2</sup>
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	コンピューター室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	化石収蔵庫(中2階)	120
11	貝類収蔵室	25
12	陶器収蔵室	36
13	その他	145m <sup>2</sup>



<1階>

番号

1	事務室	115m <sup>2</sup>
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	案内コーナー	18
17	講堂(客室)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	11
27	友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5
30	厨子甕収蔵庫	75
31	身障者用トイレ	6



<地下階>

番号

1	収蔵庫	285m <sup>2</sup>
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

### 3 予 算

平成 7 年度博物館費（決算）

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	49,200	0	49,200
賃金	0	4,913,070	4,913,070
報償費	0	1,487,500	1,487,500
旅費	1,981,494	17,226,802	19,208,296
需用費	20,276,009	19,273,956	39,549,965
役務費	948,947	25,272,558	26,221,505
委託料	19,344,180	33,746,228	53,090,408
使用料及び賃借料	1,153,841	3,501,084	4,654,925
工事請負費	4,799,728	0	4,799,728
備品購入費	7,453,698	3,223,824	10,677,522
負担金補助及交付金	70,000	0	70,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	56,095,997	108,645,022	164,741,019

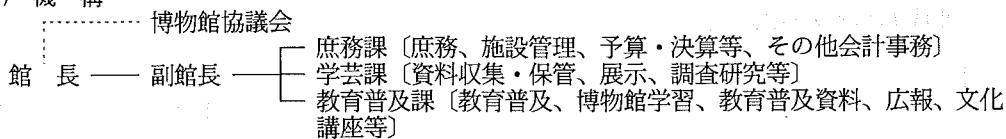
平成 7 年度歳入状況（決算）

(単位：円)

	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	11,708,210	11,708,210
土地使用料	0	0	0
建物使用料	0	0	0
雑収入	205,219	0	205,219
合計	205,219	11,708,210	11,913,429

## 4 組織

### (1) 機構



### (2) 職員構成

平成8年4月1日現在

職名	氏名	担当業務
館長	當間一郎	博物館業務の総理に関すること。
副館長	真玉橋長俊	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

### 庶務課

課長	上地泰順	庶務課の統轄、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、職員研修計画、その他庶務に関すること。
主査	友利カズ	歳入、会計事務（旅費・報償費・超勤手当）、消耗品の受入、出勤簿整理、諸手当の認定、賃金職員の申請、図書類受入、切手等の管理に関すること。
副主査	玉元妙子	給与、会計事務（旅費・報償費・超勤手当等を除く）、決算、文書等の收受に関すること。
主任（技師）	吉里功	施設設備の保守管理、燻蒸、車両の管理、その他庶務に関すること。

### 学芸課

主幹兼課長	當眞嗣一	学芸業務の統轄、考古資料、学芸員会議、県立博物館50周年記念事業、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖博協に関すること。
指導主事（充）	与那城義春	自然史資料（植物・動物）、新収蔵品展。総合調査、図書購入、紀要及び年報の発行に関すること。
〃	神谷厚昭	自然史資料（地質・化石）、恐竜展、化石資料整理、剥製委託、沖博協の書記・会計に関すること。
〃（充）	津波古聰	美術工芸資料（絵画・漆器・陶器）、大久米島展、収蔵資料整理（写真等）フクダコレクションの受け入れに関すること。
〃（充）	嵩原建二	自然史資料（植物・動物）、収蔵資料整理（管理システム）、大久米島展、剥製委託に関すること。
学芸員	萩尾俊章	歴史資料、県立博物館50周年記念事業、レプリカ作成、博物館資料購入、博物館資料修理に関すること。
〃	與那嶺一子	美術工芸資料（染織・書跡）、収蔵品台帳、博物館資料・写真資料貸出、大久米島展、レプリカ作成、博物館資料購入、博物館資料修理、県立博物館50周年記念事業に関すること。

## 学芸課

職名	氏名	担当業務
指導主事(充)	太田 健一	民俗資料、算数展、収蔵資料整理(厨子甕)、大久米島展、県立博物館50周年記念事業に関する事。

## 教育普及課

課長	前田 真之	教育普及業務の統轄、県立博物館50周年記念事業、友の会への指導に関する事。
指導主事(充)	瑞慶山 昇	移動博物館、博物館シアター、視聴覚機器の整備、年間ポスター及び行事案内の作成、美術工芸資料(彫刻)に関する事。
"	仲底 善章	子供体験学習教室、ボランティア活動事業、博物館学習の助言・調整、団体見学の対応、博物館展示リーフレットの作成、夏休み歩く見る教室、子供からの手紙相談に関する事。
学芸員補(臨任)	上原 久	文化講座、広報活動(マスコミ等)、視聴覚資料(ビデオ)の保全・管理、教育普及に関する情報・提供、考古に関する事。

## 非常勤職員

教育普及補助員	上原 敏子 喜久川 智子	教育普及、展示解説、寄贈図書類受入に関する事。
監視員	東城 美智子 金城 民子 新良子	受付補助及び展示場監視に関する事。
	小橋川 敏子 松田 昌子 比嘉 春子	展示場監視に関する事。
緑化整備員	渡慶次 紫宝	緑化整備に関する事。

## 沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子 多和田 慶子	博物館友の会の庶務会計に関する事。
-------	------------------	-------------------

## (3) 人事異動

平成8年4月1日

職名	氏名	摘要
〈転出〉 館長 主幹兼学芸課長 指導主事(充) 指導主事	糸数城 将治 大久貝 勝盛 瀬名波 盛任	定年退職 教育庁文化課 課長へ 県立伊良部高等学校 教頭へ 県立開邦高等学校 教諭へ
〈転入〉 館長 指導主事(充) 指導主事 指導主事	當間 一郎 与那城 義春 神谷 厚昭 仲底 善章	県立図書館 副参事から 県立知念高等学校 教諭から 県立浦添高等学校 教諭から 浦添市立港川小学校 教諭から

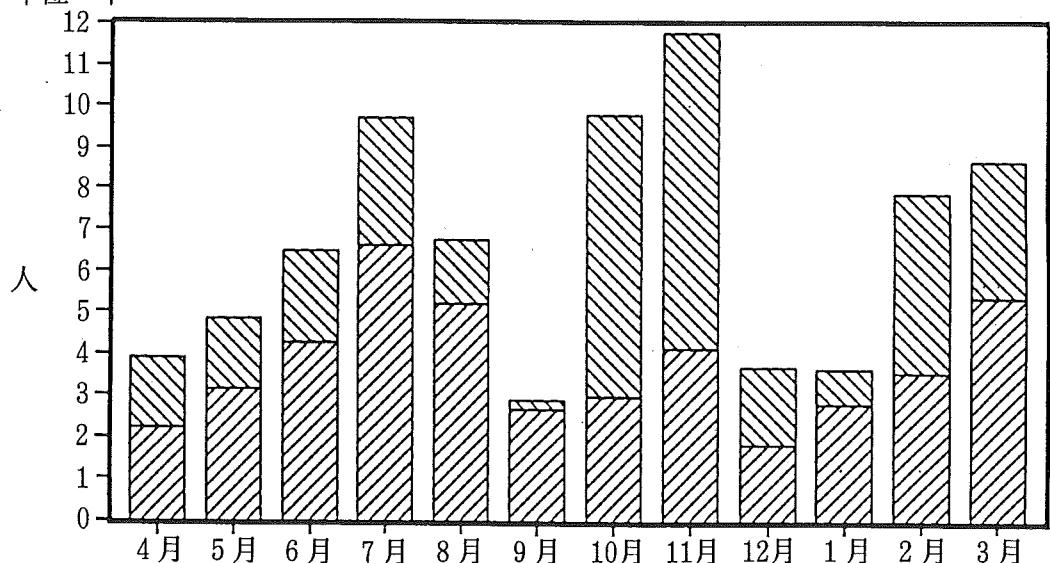
II 1 入館者数(平成7年4月1日～平成8年3月31日)  
入館者月別集計

年 月	個 人 入 館 者 数												入 館 者 総 数												開 館 日		
	大 人			高 大 生			小 中 生			合 计			团 体 入 館 者 数			大 人			高 大 生			小 中 生			合 计		
	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	
7年 4月	1,838 (0)	111 (0)	217 (7)	2,216 (7)	163 (41)	121 (6)	197 (1,165)	481 (1,212)	2,051 (41)	414 (1,172)	2,697 (1,219)	25	157														
5月	2,350 (0)	602 (0)	192 (9)	3,144 (9)	172 (31)	610 (11)	88 (755)	870 (907)	2,522 (31)	1,212 (11)	280 (774)	4,014 (816)	24	201													
6月	2,592 (839)	91 (27)	234 (470)	2,917 (1,336)	349 (58)	730 (54)	387 (652)	1,466 (764)	2,941 (897)	821 (81)	621 (1,122)	4,383 (2,100)	20	324													
7月	4,676 (380)	337 (0)	1,187 (0)	6,200 (380)	518 (94)	958 (789)	348 (375)	1,824 (1,258)	5,194 (474)	1,295 (789)	1,535 (375)	8,024 (1,638)	26	372													
8月	3,329 (5)	574 (0)	1,292 (0)	5,195 (5)	667 (536)	108 (0)	150 (108)	925 (644)	3,996 (541)	682 (0)	1,442 (108)	6,120 (649)	23	294													
9月	2,218 (2)	305 (0)	122 (24)	2,645 (26)	78 (7)	64 (0)	0 (75)	142 (82)	2,296 (9)	369 (0)	122 (39)	2,787 (108)	24	121													
10月	2,415 (0)	381 (0)	115 (45)	2,911 (45)	482 (21)	2,631 (0)	969 (2,729)	4,082 (2,750)	2,897 (21)	3,012 (0)	1,084 (2,774)	6,993 (2,795)	25	392													
11月	3,333 (0)	379 (0)	364 (28)	4,076 (28)	753 (130)	4,165 (0)	243 (2,334)	5,161 (2,514)	4,086 (130)	4,544 (0)	607 (2,412)	9,237 (2,542)	25	471													
12月	1,452 (0)	243 (0)	87 (15)	1,782 (15)	529 (6)	707 (17)	214 (390)	1,450 (403)	1,981 (6)	950 (17)	301 (395)	3,232 (418)	18	203													
8年 1月	2,203 (0)	182 (0)	320 (79)	2,705 (79)	154 (0)	91 (257)	10 (343)	255 (600)	2,357 (0)	273 (257)	330 (422)	2,960 (679)	22	165													
2月	2,880 (11)	418 (0)	103 (124)	3,401 (135)	319 (12)	1,410 (0)	24 (2,571)	1,753 (2,583)	3,199 (23)	1,828 (0)	127 (2,655)	5,154 (2,718)	24	328													
3月	4,028 (0)	781 (0)	547 (24)	5,356 (24)	471 (25)	1,750 (0)	92 (934)	2,313 (1,019)	4,499 (25)	2,531 (0)	639 (1,018)	7,669 (1,043)	25	335													
合 計	33,364 (1,237)	4,404 (27)	4,780 (825)	42,548 (2,039)	4,655 (961)	13,345 (1,134)	2,722 (12,541)	20,722 (14,336)	38,019 (2,198)	17,749 (1,161)	7,502 (13,366)	63,270 (16,725)	282														
総 計	34,601	4,491	5,605	44,637	5,616	14,479	15,263	35,358	40,217	18,910	20,888	79,995	282	284													

入館者曜日別集計

曜 月	個 人 入 餐 者 数												入 餐 者 総 数												開 館 日		
	大 人			高 大 生			小 中 生			合 计			团 体 入 餐 者 数			大 人			高 大 生			小 中 生			合 计		
	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	有料(無料)	
火	4,510 (47)	745 (0)	508 (0)	5,763 (47)	348 (27)	3,413 (96)	370 (1,702)	4,131 (1,325)	4,858 (74)	4,158 (96)	878 (1,702)	9,394 (1,872)	46	256													
水	4,747 (48)	572 (0)	525 (0)	5,844 (48)	579 (100)	2,380 (447)	378 (1,846)	3,837 (2,393)	5,326 (148)	3,452 (447)	903 (1,846)	9,381 (2,441)	46	264													
木	4,478 (54)	776 (0)	637 (0)	5,891 (54)	530 (174)	1,183 (49)	1,038 (3,819)	2,751 (4,042)	5,008 (228)	1,959 (49)	1,675 (3,819)	8,642 (4,096)	45	283													
金	5,132 (838)	652 (27)	664 (460)	6,448 (1,325)	1,052 (25)	1,603 (393)	502 (3,488)	3,157 (3,906)	6,184 (863)	2,255 (420)	1,166 (3,948)	9,605 (5,231)	47	316													
土	6,679 (77)	874 (0)	874 (365)	8,427 (442)	873 (120)	2,303 (106)	154 (1,686)	3,330 (1,912)	7,552 (197)	3,177 (106)	1,028 (2,051)	11,757 (2,354)	47	300													
日	7,818 (173)	785 (0)	1,572 (0)	10,175 (173)	812 (0)	1,963 (43)	280 (0)	3,055 (43)	8,630 (173)	2,748 (43)	1,832 (0)	13,230 (216)	49	274													
合 計	33,364 (1,237)	4,404 (27)	4,780 (825)	42,548 (2,039)	4,655 (961)	13,345 (1,134)	2,722 (12,541)	20,722 (14,336)	38,019 (2,198)	17,749 (1,161)	7,502 (13,366)	63,270 (16,725)	282	284													

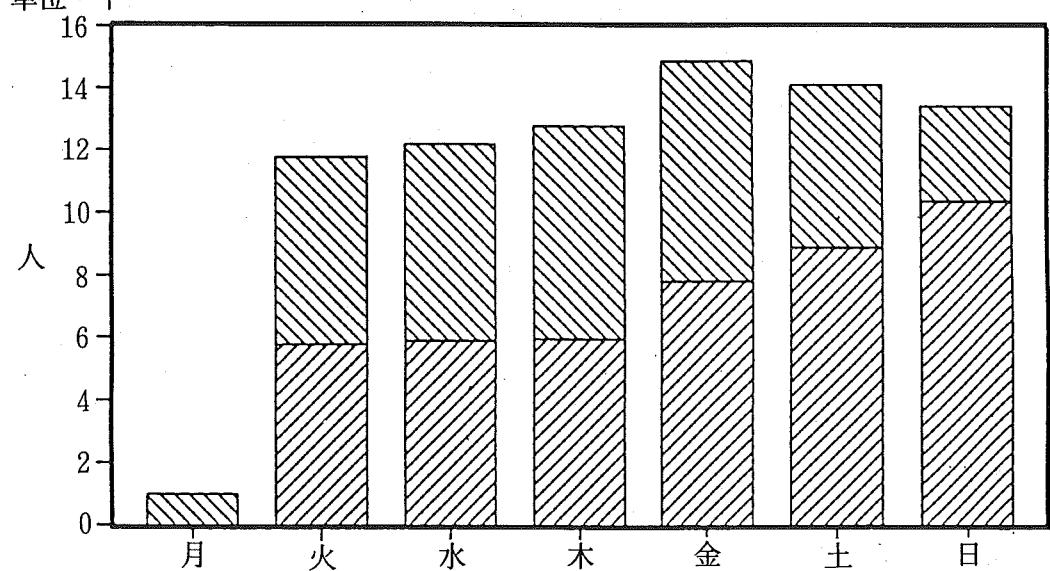
単位・千



平成 7 年度月別入館者

■ 個人 □ 団体

単位・千



平成 7 年度曜日別入館者数

■ 個人 □ 団体

団体入館者数(有料)

年 月	県			内			外			国			外			合 計		
	大 人	高 大 生	小 中 生	大 人	小 計	高 大 生	小 中 生	大 人	小 計	高 大 生	小 中 生	大 人	小 中 生	大 人	小 中 生	人 数		
平成7年 4月	3	99	0	0	1	26	4	125	1	28	2	121	3	171	6	320	1	36
5月	4	119	2	70	2	68	8	257	2	53	3	540	1	20	6	613	0	0
6月	7	229	2	60	6	384	15	673	4	120	4	670		3	8	793	0	0
7月	11	378	0	0	13	307	24	685	5	140	4	958	1	41	10	1,139	0	0
8月	5	135		2	5	140	10	277	2	483	3	106		10	5	599	1	49
9月	1	20	0	0	0	1	20	3	58	2	64	0	0	5	122	0	0	
10月	6	316	0	0	3	201	9	517	4	166	13	2,631	5	768	22	3,565	0	0
11月	8	295	0	0	2	243	10	538	6	210	27	4,165	0	0	33	4,375	4	248
12月	7	390	0	0	1	117	8	507	3	139	6	707	2	97	11	943	0	0
平成8年 1月	1	60	0	0	0	1	60	4	94	2	91		10	6	195	0	0	0
2月	1	32	1	20	0	0	2	52	7	262	7	1,390	1	24	15	1,676	1	25
3月	2	220	0	0	0	2	220	8	212	13	1,750	1	90	22	2,052	1	39	
合 計	56	2,293	5	132	33	1,486	94	3,931	49	1,965	86	13,193	14	1,234	149	16,392	8	397

移動博物館入館者数(1,364人)

## 2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 12,134名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	14	小禄小学校	199名	10	19	稻田小学校	14名	12	2	城東小学校	157名
	15	松島小学校	160名		19	城西小学校	163名		8	喜如嘉小学校	12名
	15	天妃小学校	130名		20	島袋小学校	42名		16	大道小学校	131名
	15	城西小学校	41名		20	本部小学校	168名		16	松田小学校	21名
	19	識名小学校	180名		20	百名小学校	70名		22	キリンスクール	105名
	20	城西小学校	40名		24	西崎小学校	140名	1	18	上田小学校	210名
	20	久茂地小学校	70名		24	金武小学校	95名		26	大道小学校	123名
	28	光洋小学校	114名		24	和光小学校(東京)	113名	2	7	とよみ小学校	99名
	28	浦添小学校	132名		25	清水小学校	40名		8	長嶺小学校	106名
	28	翔南小学校	99名		26	室川小学校	76名		13	上間小学校	150名
5	6	真地小学校	110名		26	新城小学校	64名		15	西原小学校	140名
	10	坂田小学校	68名		26	伊江小学校	36名		15	光洋小学校	126名
	11	内間小学校	108名		26	具志川小学校	68名		16	安和小学校	17名
	12	坂田小学校	66名		26	浦城小学校	196名		16	前田小学校	130名
	17	多良間小学校	24名		27	安富祖小学校	12名		17	大名小学校	63名
	17	津霸小学校	93名		27	泊小学校	184名		17	天妃小学校	126名
	18	宮原小学校	11名		27	宮城小学校	18名		17	高良小学校	181名
	18	鏡原小学校	39名		27	上本部小学校	51名		20	松川小学校	176名
	25	明石小学校	14名		27	兼次小学校	33名		21	城北小学校	148名
	25	西城小学校	40名		27	瀬底小学校	18名		22	真地小学校	122名
	25	久松小学校	38名		27	与那城小学校	140名		22	安謝小学校	102名
	26	カデナミドルスクール	35名		27	与那国小学校	20名		23	安田小学校	8名
6	1	北小学校	114名		27	松川小学校	155名		23	宇栄原小学校	137名
	1	渡嘉敷小学校	14名		27	勝連小学校	85名		27	与儀小学校	114名
	1	砂川小学校	41名	11	31	鳩間小学校	3名		27	琉大附属小学校	117名
	8	平良第一小学校	141名		1	牧港小学校	131名		28	識名小学校	173名
	8	西辺小学校	28名		1	北美小学校	120名		29	城西小学校	104名
	8	平良市立東小学校	152名		1	上原小学校	13名		29	天妃小学校	120名
	8	石垣小学校	100名		1	与那原東小学校	128名	3	1	松島小学校	138名
	10	福嶺小学校	18名		1	屋我地小学校	25名		1	城西小学校	70名
	20	大名小学校	83名		1	辺土名小学校	49名		5	若狭小学校	119名
	27	石垣市立新川小学校	172名		2	大北小学校	116名		6	船越小学校	46名
	29	波照間小学校	15名		2	宜野座小学校	42名		6	小禄小学校	125名
	29	大岳小学校	43名		2	大宮小学校	192名		8	神原小学校	124名
7	30	沖縄三育小学校	26名		2	漢那小学校	13名		12	城南小学校	102名
	1	久茂地小学校	59名		2	今帰仁小学校	54名		13	城岳小学校	131名
	6	平久保小学校	5名		2	羽地小学校	67名		15	真和志小学校	139名
	7	沖縄三育小学校	22名		2	西小学校	43名				
	14	平良市立南小学校	123名		2	宮島小学校	9名				
	16	沖縄カトリック小学校	75名		7	沢城小学校	100名				
10	7	西崎小学校	135名		7	山内小学校	116名				
	12	志真志小学校	190名		8	仲里小学校	41名				
	12	伊平屋小学校	27名		8	浜川小学校	147名				
	12	久辺小学校	27名		9	仲泊小学校	22名				
	12	津波小学校	15名		9	嘉芸小学校	38名				
	12	島袋小学校	63名		10	当山小学校	161名				
	13	久志小学校	16名		10	奥間小学校	28名				
	13	東江小学校	128名		10	名護小学校	120名				
	13	天底小学校	29名		18	石巒小学校	152名				
	19	米須小学校	49名		21	真喜屋小学校	26名				
	19	西表小学校	8名		21	佐敷小学校	66名				
	19	大里南小学校	160名		22	有銘小学校	10名				

(中学校) 1,710名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	15	喜界町立第二中学校	33名	10	17	海星中学校	97名	2	21	青陵中学校	23名
	22	喜界町立早町中学校	43名		20	兼城中学校	121名		24	北中城中学校	15名
	23	喜界町立第一中学校	95名		25	菊陽町立菊陽中学校	190名				
	28	カデナミドルスクール	25名		26	聖ウルスラ学院中学校	75名				
5	11	芦北町立吉尾中学校	20名	11	16	越來中学校	111名				
6	30	城北中学校	30名		17	具志頭中学校	122名				
7	7	仲井真中学校	49名		24	コザ中学校	260名				
	12	松城中学校	19名	12	5	芸北中学校	40名				
	10	西合志南中学校	293名		25	聖光学院中学校	49名				

(高等学校) 12,448名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名			
4	1	山陽女子高等学校	53名	10	24	立川女子高等学校	165名	11	29	東海大学菅生高校	106名
20	25	糸満高等学校	6名	25	美鈴が丘高等学校	198名	12	29	東海大学菅生高校	125名	
26	聖ドミニコ学園高校	68名	28	大妻嵐山高校	264名	7	2	東海大学菅生高校	246名		
5	6	沖縄水産高等学校	11名	28	都立雪谷高校	324名	10	7	仙台高等学校	26名	
24	潤徳女子高校	178名	31	湘南台高校	155名	10	精華女子高校	295名			
6	県立陽明高等学校	17名	31	川崎高等学校	192名	22	常葉学園高校	47名			
6	都立濃芸高等学校	136名	11	1	七里ヶ浜高校	173名	1	7	県立那覇商業高等学校	43名	
20	明法高等学校	136名	1	七里ヶ浜高校	173名	10	県立南部農林高等学校	184名			
29	九州産業学校	197名	3	湘南台高校	150名	18	広島県立湯来南高等学校	37名			
30	九州産業高校	201名	3	都立府中西高校	44名	25	県立北部農林高等学校	30名			
7	1	陽明高等学校	37名	4	都立大学附属高校	19名	31	大和高等学校	54名		
1	九州産業高校	178名	5	淑徳巣鴨高校	197名	2	1	和歌山高校	188名		
2	九州産業高校	197名	5	淑徳巣鴨高校	174名	2	和歌山高校	178名			
7	陽明高等学校	23名	7	県立横浜日野高校	317名	6	都立小川高等学校	322名			
11	陽明高等学校	39名	7	湘南女子高校	188名	8	県立和歌山西高校	328名			
15	東京高校	136名	7	淑徳巣鴨高等学校	225名	21	東邦高等学校	353名			
15	陽明高等学校	35名	7	淑徳巣鴨高等学校	231名	22	沖縄水産高校	20名			
15	浦添工業高校	23名	8	亨冢山学院泉ヶ丘高校	21名	3	大阪商業大学高等学校	123名			
18	陽明高等学校	40名	9	湘南女子高校	158名	5	大阪商業大学高等学校	120名			
19	浦添工業高校	37名	9	県立東村山西高校	20名	11	開智高等学校	273名			
19	陽明高等学校	35名	11	菊地女子高校	81名	13	愛知産業大学三河高校	184名			
8	私立熊本女子高校	56名	14	春日丘高校	178名	15	足立学園高校	169名			
31	私立成蹊高等学校	33名	14	春日丘高校	173名	16	駒沢大学高校	173名			
10	1	国立音大附属高校	79名	15	國土館高校	259名	19	駒沢大学高校	199名		
11	ノートルダム清心高校	188名	15	秋留台高校	263名	23	修道高校	46名			
11	県立川崎北高校	157名	17	春日丘高校	161名	23	広島学院高校	167名			
11	県立川崎北高校	158名	21	須磨ノ浦女子高校	247名	23	修道高校	92名			
13	八王子高等学校	228名	22	羽田高校	143名	26	修道高校	47名			
14	八王子高等学校	232名	24	須磨ノ浦女子高校	264名	28	桜丘女子高校	44名			
22	立川女子高等学校	113名	24	東海大山形高等学校	45名						

(大学・専門学校) 820名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名		
5	23	南西日本語学校豊見城校23名	6	30	沖縄国際大学	26名	12	19	山梨学院大学	21名
	26	沖縄ビジネス外語学院	9	2	獨協大学斎藤ゼミ	21名	19	小平短期大学	72名	
	27	名古屋デザイン専門	10	19	東京法科学院専門学校	115名	2	18	大阪大学文学部	21名
6	27	東海工業専門学校	232名	25	群馬県立保育大学	63名				
6	24	沖縄キリスト教短期大学34名	11	22	慶應義塾大学	16名				

(特殊学校・その他) 1,266名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名		
5	14	日本ボーイスカウト連盟33名	7	26	コスマス子ども会	15名	10	5	当蔵保育所	11名
18	沢姫幼稚園	74名	26	城岳児童クラブ	31名	18	慈愛幼稚園	36名		
6	20	当蔵保育所	10名	26	山びこ子ども会	20名	25	長田学童保育所	24名	
21	沖縄盲学校	34名	26	平和を見つめる旅	16名	11	7	城西幼稚園	70名	
21	ひまわり保育園	6名	26	城西児童クラブ	23名	17	YMCA幼稚園	80名		
22	沖縄盲学校	27名	27	胡屋青少年協会	45名	30	小川保育園	18名		
24	壺屋児童館	18名	27	宮城学童クラブ	26名	12	5	女子短附報恩幼稚園	28名	
7	18	光幼児学園	31名	27	津嘉山学童センター	44名	6	西崎養護学校	17名	
20	光の子保育園	17名	29	よなぐに幼稚園	22名	7	当蔵保育所	21名		
20	津嘉山学童センター	28名	8	海星学園学童児	20名	1	13	ピーター・パン保育園	10名	
21	北九州市レク協会	14名	12	小湾子ども会育成会	16名	2	6	広栄保育園	24名	
21	アーマン会	9名	17	兼城教育センター	63名	8	8	広栄保育園	14名	
21	ひまわり友の会	15名	22	高良学童クラブ	8名	15	ピーター・パン保育園	13名		
25	赤田子供会	15名	24	泊児童クラブ	15名	22	石川市保育所	19名		
25	長田学童保育所	22名	25	神森学童クラブ	29名	22	久場川保育所	25名		
26	神原西区ひまわり子供会15名		25	当蔵保育所	14名	3	31	琵琶湖少年の翼	81名	

### III 調査研究活動

#### [概要]

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、教育活動という4つの大きな柱によって構成されている。これらの各機能は互いに相関性をもって存在するものである。

当館における従来の調査研究には、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を定めて調査研究に取り組む共同研究と、学芸員各自が自分の専門分野について個々に調査研究する個別研究がある。

共同研究は、平成5年度から始まった久米島の総合調査が平成6年度に終了し、その成果を平成7年3月『久米島総合調査報告書—自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築—』として刊行した。引き続いて平成7年度からは2カ年計画で波照間島の総合調査を計画していたが、予算化することができず共同研究としての総合調査はやむなく中断せざるを得なかった。

個別研究については前述したように専門分野の研究を各学芸員が個々に行うものであるが、従来のとおり今年度もまた、各学芸員によって多様な研究が行われた。これらの研究成果については、『沖縄県立博物館紀要』第22号に個人論文・報告の形で発表した。しかし、『紀要』に掲載された成果についてはその一部であり、その多くは、各学芸員の専門分野の学会誌や機関誌などに個人研究の形で発表している。

以下、各学芸員が平成7年度に行った活動状況を1調査研究活動、2著作論文、3講演等の順で報告することにする。

#### 1 調査研究

##### 大城 将保

○ハワイでの具志頭村関係の博物館資料調査

○台湾宜蘭県交流展準備の予備調査

##### 當眞 嗣一

○中世城館研究セミナー（長野県更埴市）

期 間：1995年8月4日～6日

○久米島の遺跡調査

期 間：1996年2月2日～2月4日

○北部のグスク調査

期 間：1996年3月1日～2日

○石垣島および竹富島の遺跡調査

期 間：1996年3月6日～8日

○久米島のグスク調査

期 間：1996年3月28日～30日

##### 前田 真之（指導主事）

○久米島調査

期 間：1996年3月12日（火）～3月14日（木）

成 果：久米島の沖縄角力関係の資料

及び芸能関係等の情報を収集し、特別展に備える。

##### 與那嶺一子（学芸員）

○県内染織所在調査

期 間：平成7年8月～平成8年3月まで

依頼機関：沖縄県教育委員会文化課

調査地：名護博物館・読谷村立歴史民俗資料館・県立博物館

○徳島県立博物館主催「黒潮の道」展共同研究

期 間：平成8年2月13日～18日

依頼機関：徳島県立博物館

調査地：徳島県徳島市・藍住町・鳴門市

○民俗資料としての琉球風俗画の基礎的研究

期 間：平成8年3月～

依頼機関：東京国立博物館

##### 瀬名波 任（指導主事）

○教育普及書作成事業自然調査（本島北部・石垣・与那国・南大東）

期 間：1995年6月～1995年12月

### 久貝 勝盛

○中城湾海鳥生息環境調査

期 間：1995年8月4日

依頼機関：県自然保護課

○南大東島鳥類調査（教育普及書作成事業）

期 間：1995年12月17日～19日

依頼機関：県立博物館

○宮古、石垣、与那国、西表鳥類調査（教育普及書作成事業）

期 間：1996年2月5日～11日

依頼機関：県立博物館

○北大東島鳥類調査（教育普及書作成事業）

期 間：1996年3月14日～16日

依頼機関：県立博物館

○平良市自然環境調査

期 間：1995年10月～1996年3月

### 萩尾 俊章

○沖縄県立博物館50年史関連調査

期 間：平成7年10月～平成8年3月  
31日

成 果：平成8年度に『沖縄県立博物館50年史』として刊行

○東御廻り等関連拝所総合調査

期 間：平成7年12月19日～平成8年  
3月31日

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

成 果：平成8年度に報告書としてま  
とめる

○「沖縄の自然と民俗」共同調査

期 間：平成8年2月13日～18日

依頼機関：徳島県立博物館

○東京国立博物館所蔵琉球関係資料調査

期 間：平成8年2月26日～28日

依頼機関：東京国立博物館

### 津波古 聰

○「県内所在染織品調査」平成5年度～平  
成8年度

依頼機関：沖縄県教育委員会・文化課

成 果 品：今年度報告書作成

○「首里城関係資料収集業務」平成8年度

1月24日～26日

依頼機関：国営沖縄記念公園事務所首里  
出張所

成 果 品：報告書刊行

○「民族誌資料としての琉球風俗画の基礎  
的研究」平成8年3月6日～3月8日

依頼機関：東京国立博物館

成 果 品：報告書刊行

○「識名園展示資料所在調査」平成8年3  
月25日～3月29日

依頼機関：那覇市教育委員会・文化課

### 嵩原 建二

○教育普及事業 現地調査（帰化動物調査）

期 間：1995年6月～1996年3月

依頼調査機関：県立博物館

○名護市動植物総合調査

期 間：平成7年3月から平成8年3  
月31日

依頼調査機関：名護市教育委員会

調査 地：名護市一円

○名護市文化財保護調査

期 間：平成6年4月1日から平成7  
年3月31日

依頼調査機関：名護市教育委員会

調査 地：名護市一円

○沖縄県環境保健部自然保護課委託調査  
「特殊鳥類等生息環境調査」

期 間：平成7年6月1日から平成8  
年3月31日

依頼調査機関：沖縄県公衆衛生協会

調査 地：八重山諸島一円

○沖縄県環境保健部自然保護課委託調査  
「沖縄版レーットデータブック作成」

期 間：平成7年6月14日から平成8  
年3月31日

依頼調査機関：環境アセスメントセンター

青嶽人

## 2 著作論文

糸数 兼治

- 「太平山小考」沖縄県立博物館紀要 第22号、沖縄県立博物館 1996年

大城 将保

- 「海外同胞の戦災沖縄救援運動」『図録・甦る沖縄』95.6
- 「島ミュージアムの夢」『歴博』95.73号
- 「沖縄の平和の礎」『歴史と地理・日本史の研究』95.12号
- 「沖縄戦」『地方史事典』96.1
- 「通事・牧志朝忠」『ペリー提督と大琉球』96.2

當眞 嗣一

- 「縄張りから見た屋良グスク」『屋良グスク』 嘉手納町教育委員会 1995年4月。
- 「縄張り構造から見た知念城」『史跡知念城跡保存管理計画書』 知念村教育委員会 1995年4月。
- 「南西諸島の考古学」『展望考古学—考古学研究会40周年記念論集』 考古学研究会 1995年6月。
- 「沖縄県発見の碇石について」『南島考古だより』第52号 沖縄考古学会 1995年6月。
- 「沖縄のグスク」『戦国の城・近世の城』別冊歴史読本 新人物往来社 1995年9月。
- 「都市・城館研究の最新情報—沖縄—」『中世都市研究2—古代から中世へ』新人物往来社 1995年9月。
- 「グスクを歩く」『月刊考古学ジャーナル12』No.397 ニュー・サイエンス社 1995年12月。
- 「教科書に登場する遺跡・首里城跡」『考古学研究』第42巻第3号 考古学研究会 1995年12月。
- 「佐敷グスクの縄張り」『佐敷の歴史と文化』佐敷町教育委員会 1995年12月。
- 「沖縄の開闢神話と天女伝説」『日本古代史—神話伝説の最前線—』別冊歴史読本 新人物往来社 1996年1月。
- 「発掘された戦争遺跡 森川陣地壕の調査」『明日への文化財』1996年3月。
- 「南西諸島発見碇石の考察」『沖縄県立博物館紀要』第22号 1996年3月。
- 「沖縄の石器」『農耕開始期の石器組成2』国立歴史民俗博物館 1996年3月』

前田 真之

- 「発見！発見！大発見！—博物館探検コース」1995年9月5日 沖縄県立博物館

與那覇一子

- 「農商務省より独逸宛の沖縄関係物品目録について」（共著）『沖縄県立博物館紀要』第22号
- 瀬名波 任

- 教育普及書「沖縄の帰化動物」（共著）県立博物館1996年3月

久貝 勝盛

- マングローブ林の生き物たち 私たちの自然 1995年4月号
- 宍塙の自然と歴史の会講演会記録集（共著）茨城県 1995年10月
- 渥美の自然の講演会記録集（共著） 愛知県 1995年10月
- 日本におけるサシバの秋の渡り 県立博物館紀要 1996年3月
- 最近沖縄（1995年4月～1996年3月）で目撃及び保護された興味深い鳥類（短報）、共著、県立博物館紀要 1996年3月
- 教育普及書「沖縄の帰化動物」（共著）県立博物館 1996年3月
- 下地町与那覇湾一帯の鳥類相 平良市総合博物館紀要 第3号、1996年3月
- 平良市自然環境総合調査報告書（共著）平良市 1996年3月

### 萩尾 俊章

- 「西南中国の酒と泡盛をつなぐ道」『泡盛浪漫』沖縄出版 1996年
- 共著「農商務省より独逸國宛琉球関係資料目録（上）」『沖縄県立博物館紀要』 第22号  
1996年3月
- 「神アシアゲ」他11項目『神々の辞典』大修館書店 1996年

### 嵩原 建二

- 鳥の巣について  
企画展「巣」展図録 沖縄市郷土博物館
- The check-list of Bird of Okinawa Prefecture with Notes on Resent Status Including Hypothtical Recoeds. (最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録)  
沖縄県博物館紀要第22号 1996年3月31日 (共著)
- 「最近沖縄（1995年4月～1996年3月）で目撃された興味深い鳥類（短報）」  
沖縄県博物館紀要第22号 1995年3月31日 (共著)
- ボルネオ島サラワク州で目にした動植物  
博友第9号、1996年3月31日 沖縄県博物館友の会
- 沖縄県博物館平成7年度教育普及書「沖縄の帰化動物」(共著)  
沖縄県立博物館 1996年3月
- 平成7年度特殊鳥類等生息環境調査報告書  
「八重山諸島の主要な干潟及び湿地とその周辺地域における鳥類について」(共著)  
沖縄県公衆衛生協会 1996年3月31日

### 3 講演等

#### 大城 将保

- 講 座：「沖縄の歴史と文化」95.4  
依頼機関：沖縄県自治研修所
- 講 演：「やんばるの沖縄戦」95.8.5  
依頼機関：高校生とともに考えるやんば  
るの沖縄戦実行委員会
- 講 演：「八重山の戦争マラリア」95.11  
依頼機関：竹富町教育委員会
- 講 座：「戦後50年・文化復興の歩み」95.11  
依頼機関：北谷町公民館

#### 當眞 奉一

- 「琉球王国の誕生—グスクを中心に」  
1995年4月26日  
依頼機関：琉球銀行
- 「琉球の歴史—先史時代—」1995年7月29日  
依頼機関：島尻教育事務所
- 「琉球の歴史と中国との関わり—グスク  
時代—」1995年7月14日

依頼機関：沖縄市宮里公民館

- 「勝連グスクと阿麻和利」1995年8月20日

依頼機関：ロワジールホテル

- 「勝連グスクについて」1995年8月18日

依頼機関：勝連町教育委員会

- 「戦跡考古学について」1995年8月19日

沖縄県立博物館文化講座

- 「首里城と勝連城について」1995年10月27日

依頼機関：那覇市久茂地図書館

- 「グスクの話」1995年11月10日

依頼機関：宜野湾市教育委員会

- 「グスクと首里城」1996年1月24日

依頼機関：琉球新報カルチャーセンター

- 「グスクと琉球史」1996年2月13日

依頼機関：沖縄県教育委員会

#### 前田 真之（指導主事）

- 「沖縄の先人たち—二人の異国通事の生  
きざま—」  
依頼機関：島尻教育事務所

- 「博物館で何を学ぶか」  
依頼期間：浦添市教育委員会
- 與那霸一子**
- 「紅型の歴史」  
期　　日：平成7年11月11日（土）  
依頼機関：CRAFT & FOLK ART MUSEUM in Los Angeles  
場　　所：CRAFT & FOLK ART MUSEUM in Los Angeles
- 第46回文化講座「名護博物館の染織資料」  
期　　日：平成7年11月24日（金）  
依頼機関：名護博物館
- 「紅型」  
期　　日：平成7年12月20日  
依頼機関：県立芸術大学
- 瀬名波・任**
- 「親子星空教室」  
期　　日：5月13日・5月20日・6月3日・  
6月11日・7月1日・7月15日・  
8月5日・8月19日・9月2日・  
9月16日・10月7日・10月21日・  
11月4日・11月11日・12月2日・  
12月16日・1月6日・1月20日・  
2月3日・2月17日  
依頼機関：那覇市久茂地公民館
- 「自然観察会」  
期　　日：7月16日  
依頼機関：桃原子供会  
場　　所：末吉公園
- 「七夕観望会」  
期　　日：8月17日・8月18日  
依頼機関：那覇市久茂地公民館
- 移動博物館「自然観察会」  
期　　日：11月19日  
依頼機関：沖縄県立博物館  
場　　所：渡嘉敷島
- 「化石について」  
期　　日：12月10日  
依頼機関：浦添市城間公民館
- 知念村青少年野外研修会「中南部の化石」  
期　　日：2月10日  
依頼機関：知念村公民館  
場　　所：知念村・佐敷町・沖縄市・宮城島・伊計島
- 久貝　勝盛**
- 自然観察会  
期　　日：1995年7月16日  
依頼機関：首里桃原町子供会育成会
- 野鳥の話  
期　　日：1995年11月21日  
依頼機関：浦添市てだこ学園大学院
- バードウォッチング  
期　　日：1995年12月6日  
依頼機関：県環境保健部自然保護課（山田中学校）
- 野鳥観察  
期　　日：1995年12月7日  
依頼機関：島尻教育事務所
- 野鳥観察  
期　　日：1996年1月18日  
依頼機関：県立名護養護学校
- 八重山探鳥と講演の集い  
期　　日：1996年2月11日  
依頼機関：環境庁
- 自然史解説学習会  
期　　日：1996年2月18日  
依頼機関：博物館友の会
- 自然観察と指導のポイント  
期　　日：1996年3月10日  
依頼機関：県教育委員会
- 野鳥観察会  
期　　日：1996年3月17日  
依頼機関：博物館友の会
- 萩尾　俊章**
- 「沖縄の文化と歴史」  
期　　日：平成7年9月7日  
依頼機関：全国商業労働組合
- 「西南中国の酒と泡盛一泡を盛る習俗をめぐって」  
期　　日：平成7年9月16日

- 備 考：沖縄民俗学会月例会
- 「歴史の道を歩く—山川まい」  
期 日：平成 7 年 10 月 21 日  
備 考：沖縄県立博物館文化講座  
○「戦後50年関連展示会をめぐって」  
期 日：平成 8 年 2 月 9 日  
依頼機関：沖縄県地域史協議会
- 嵩原 建二**
- バードウイーク野鳥講演会講師  
期 日：平成 7 年 5 月 12 日  
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課  
場 所：百名小学校
- 早朝探鳥会講師  
期 日：平成 7 年 5 月 20 日  
依頼機関：玉城少年自然の家  
場 所：玉城少年自然の家
- 自然観察会講師  
期 日：平成 7 年 7 月 16 日  
依頼機関：那覇市首里桃原町子供育成会  
場 所：那覇市末吉公園
- 自治公民館講座「ふるさと探検隊」講師  
期 日：平成 7 年 7 月 20 日  
依頼機関：読谷村教育委員会  
場 所：読谷村長田（米軍基地嘉手納  
弾薬庫内）
- 自然観察会講師  
期 日：平成 7 年 7 月 21 日  
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課  
場 所：玉城村立百名小学校
- 研修旅行講師  
期 日：平成 7 年 8 月 22 日～8 月 30 日  
依頼機関：沖縄県博物館友の会  
場 所：マレーシア連邦サラワク州  
(ボルネオ島)
- 第35回沖縄県児童生徒科学作品展審査員  
期 日：平成 7 年 10 月 27 日  
依頼機関：沖縄県高等学校文化連盟科学部
- 自然観察会講師  
場 所：恩納村県民の森  
期 日：平成 7 年 11 月 3 日  
依頼機関：沖縄県保母者会
- 場 所：恩納村県民の森  
○移動博物館関連行事野鳥観察会講師  
期 日：平成 7 年 11 月 19 日  
依頼機関：渡嘉敷村教育委員会  
場所：渡嘉敷島一円  
○親子野鳥観察会講師  
期 日：平成 7 年 11 月 26 日  
依頼機関：浦添小学校 P T A  
場 所：宜野湾市宇地泊  
○移動博物館関連行事野鳥観察会講師  
期 日：平成 7 年 11 月 26 日  
依頼機関：国頭村教育委員会  
場所：国頭村与那  
○野鳥講演会講師  
期 日：平成 7 年 11 月 30 日  
依頼機関：沖縄県島尻教育事務所  
場 所：沖縄県島尻教育事務所
- 探鳥会講師  
期 日：平成 7 年 12 月 6 日  
依頼機関：恩納村立山田中学校  
場 所：金武町億首川
- 探鳥会講師  
期 日：平成 7 年 12 月 7 日  
依頼機関：沖縄県島尻教育事務所  
場 所：糸満市報得川・豊見城村翁長干潟
- 職員研修（野鳥観察会）講師  
期 日：平成 8 年 1 月 18 日  
依頼機関：沖縄県立名護養護学校  
場 所：名護市屋部川
- 第18回沖縄県青少年科学作品展審査員  
期 日：平成 8 年 1 月 25 日  
依頼機関：沖縄県教育委員会高等学校教育課  
場 所：沖縄電力
- 沖縄県環境モデル指定校発表会助言者  
期 日：平成 8 年 2 月 9 日  
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課  
場 所：沖縄県庁講堂
- 野鳥観察会講師  
期 日：平成 8 年 2 月 11 日  
依頼機関：北谷町中央公民館  
場 所：北谷町中央公民館・沖縄市

## 4 職員研修

### 平成7・8年度歴史民俗資料館等専門職員研修会（平成7年度分）に参加して 学課 太田 健一

文化庁・国立歴史民俗博物館主催で、平成7・8年度歴史民俗資料館等専門職員研修会（平成7年度分）は、11月27日（月）から12月1日（金）の5日間にわたって、千葉県佐倉市の佐倉城跡内にある国立歴史民俗博物館（以下「歴博」と略す）を会場に実施された。同研修会に参加する機会を得たので、その概要について報告する。

同研修会は、歴史民俗資料館等において、歴史資料・考古資料・民俗資料等の保存活用を担当する者に対し、これら文化財の調査、収集、保存及び公開等に関する必要な専門的知識と技能の研修を行い、歴史民俗資料館等の活動の充実に資するところを目的としている。北は青森から南は沖縄までの経験年数5年未満の専門職員55名が同研修会に参加した。11月27日（月）の受付後の開講式・オリエンテーションを皮切りに研修は始まった。

研修内容は、大きく講義・展示見学・施設見学・課題討論の4つに分けられる。まず最初に、研修の中で最も時間をとっている講義について説明していく。講義内容は、文化財保護の歩みと保護行政の概要、文化財保護の現状と課題（有形民俗文化財・美術工芸の外5項目）、調査研究の動向（民俗学・民俗芸能・考古学・歴史学）、コンピュータの活用、展示概論及び映像記録の作成の6つからなっている。私はこれまでに文化財保護行政に携わったことがなく、平成7年4月に学校現場から沖縄県立博物館に異動してきた。そこで、文化財保護に関する講義を受講して、博物館学芸員の使命と役割の重要性を考えさせられた。また、コンピュータの活用の講義は21世紀の博物館像を示してくれた。インターネットの普及により、将来博物館は文化情報の発信源として、庶民にとってより身近なものになるのではないだろうか。沖縄県立博物館でも新館移転に向けて、収蔵資料の一般公開用データベース（画像データも含む）を作成中である。

展示見学の時間は限られており、広い「歴博」の展示場をじっくり見て回ることはできなかった。「歴博」の展示は、事柄の把握を目的としているため模型・ジオラマ等の製作資料の多い点が印象深かった。沖縄県立博物館でも「山原の自然」ジオラマや「山原の風景」模型を展示していて、状況が理解しやすく楽しみながら見られるため人気がある。施設見学では写真室、トラックヤード・くん蒸室や収蔵庫等を見たが、とにかく広く間取りされているので資料がきちんと整理・保管されている。

課題討論は、各歴史民俗資料館等の現状と課題の報告が行われた後に、3班に分かれて討論会を開いた。その課題討論テーマは、「地域と歴史民俗資料館」—どうしたら地域に密着した資料館となりうるか—である。討論内容は、1. 地域博物館としての具体的な活動について（①資料収集を通してなにができるか、②学校教育とのかかわり方は、③社会教育の場としてなにができるか、④調査研究の拠点としていかに関われるか）、2. 文化財の保護活動の窓口として、3. 学芸員・専門職員のかかわり方であり、参加者全員がかかえている問題である。

最後に、どの資料館・博物館も思い通りにはいかない職員数・収蔵庫等の空間・予算の厳しい制限を受けながら、専門職員・学芸員の熱意に支えられて運営されていることを感じた。今回の研修会の5日間は、私にとって様々な意味で有意義に過ごすことができた。

## IV 展示活動

### 1 常設展

沖縄県の歴史は、かつて琉球王国を誕生させ日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易し統一国家を誕生させてきたという歴史的経緯を有している。本博物館はこうした特性のある歴史と文化に関する資料を収集・調査・研究してその成果を展示する総合博物館である。

よくいわれることだが、沖縄の素顔は五つの特徴をもっているとされる。一つは、「県土面積は狭いが海域を含めると広い県」であるということ。二つには、亜熱帯気候や島嶼性という地理的位置の関係等から動植物の生態系が多種・多様で「東洋のガラパゴス」と呼ばれているということ。三つには、「ユニークな歴史と文化をもつ島」であるということ。四つには、去る大戦では日本で唯一「戦場となった島」であるということ。五つには、「基地の島」であるということ。などである。

常設展示のメインテーマは「沖縄の歴史と文化」。この常設展示を一巡することにより前述した沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されているのが展示内容の大きな特徴になっている。

展示室は、一階の第一室と第二室、二階の企画展示室と第三室、さらに中三階の第四室がある。第一室が考古・歴史で、ここでは琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。たとえば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開をみせる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿など。12世紀から13世紀になると按司と称する地域の権力者が出現しグスク時代が始まる。やがて15世紀前半には沖縄島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の進攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでの沖縄歴史のユニークな諸相が展開されている。

第二室の自然史の展示は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれるアンモナイトやハロビア、あるいは絶滅して今では見られないリュウキュウジカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。時計まわりに見ていくと、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林にすむ生きもの、源流の生きものと続き、また、沖縄のハブについても分類して展示してある。とくに大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島や国・県指定の天然記念物については特設コーナーを設けて展示してある。

自然室を出て左へ折れると2階にいたるスロープがあり、そのスロープを沖縄の野鳥たちの壁面写真パネルに導かれてのぼって行くと企画展示室となる。この展示室には「大嶺コレクション」が展示されているが、その一角を利用して沖縄の染織のルーツといわれる「東南アジアの染織」も展示してある。毎年一回行われる新収蔵品展などは主にこの展示室を使って行われている。

第三室美術工芸の展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交渉を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書

跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第四室民俗の展示室には、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・芸能など、テーマごとに整理・分類して展示してある。また、庶民の生活用具である民具をとおして、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知る資料も展示してある。なかでも、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などが紹介展示されているのはこの室の特徴点の一つになっている。

その他、野外展示やロビー展示もある。

当博物館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石牆は、前方の龍潭や首里城の眺めと調和して往時の古都をしのばせる歴史的景観を呈している。前庭には、旧圓覺寺樓鐘（重文）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、芝生の中にひっそりと立っている石灯籠や石巖當とともに石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭などが亜熱帯の樹木や草花に囲まれて屋外展示されている。ロビーにはいると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった正殿大龍柱の頭や万国津梁の鐘（首里城正殿鐘・重文）、「徳高」・「徳聲」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。

## 2 特別展

### 太平洋戦争・沖縄戦終結50周年事業

#### 特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」(担当:萩尾俊章)

会期: 1995年(平成7) 6月20日(火) ~ 7月30日(日)

※沖縄県慰靈の日(6月23日)は特別展の趣旨にもとづき開館した。

会場: 沖縄県立博物館(ロビー、第1展示室、スロープ、企画展示室、美術工芸室)

#### 〔趣旨〕

沖縄戦50周年の大きな節目を迎えて県民一人ひとりが戦争体験と戦後史体験の足跡をふりかえり戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて確認し、この沖縄から世界へ向けて平和のメッセージを発信することは意義深いことである。

記念事業の一環として、平成7年6月の「沖縄県慰靈の日」を中心に特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」及び関連催事を開催する。

文化財の破壊と散逸の実状を通して戦争の慘禍と不毛さを強調し、廃墟の中から立ち上がって生活文化を再建し、文化財の収集・保存・復元に取り組み、本土や海外からの支援と協力も得ながら沖縄文化をみごとに復興させてきた県民の努力の足跡を実物中心で感動的に展示し、また関連催事でテーマを補強して、沖縄の平和創造の精神を内外にアピールするという趣旨で開催した。

#### 〔開催形式〕

主催は沖縄県・沖縄県教育委員会・沖縄県立博物館でおこない、共催は琉球新報社、後援は米国総領事館、ホノルル美術館、ビショップ博物館、ロサンゼルス・カウンティ美術館、ハワイ沖縄県人会、北米沖縄県人会があたり実施した。また、出品協力は120を超える博物館・美術館・団体・個人に及んだ。

教育課程にもとづく教育活動として入館する県内の児童・生徒及びこれらの引率者については入館料を免除した。また、6月23日は、慰靈の日にかんがみ、特別に開館し、入館料の免除をおこなった。

#### 〔展示内容〕

戦後の廃墟の中から立ち上がって生活文化を再建し、文化財の収集・保存・復元に取り組み、本土や海外からの支援と協力も得ながら沖縄文化をみごとに復興させてきた県民の努力の足跡を、2万点余の資料と写真で一堂に展示紹介した。

展示はI「甦る沖縄」、II「もう一つの沖縄社会」、III「海を渡った文化財ー在米国沖縄関連文化財ー」の3コーナーに分けて構成した。展示については、1994年度に5回、1995年度に3回の展示委員会を開催して、検討を重ねていった。展示委員は、上江洲敏夫(具志川市史編さん室)、村上有慶(沖縄職業能力開発短期大学校)、新城俊昭(陽明高校)、ダグラス・ドライスタッフ(沖縄国際大学)、園原謙(沖縄県教育庁文化課)の各氏を委嘱した。

## I 「甦る沖縄」

沖縄戦による文化財の破壊と散逸の状況について、失われた文化財のありし日の写真、資料一覧等で紹介し、かつ県立博物館収蔵の沖縄戦で破壊された文化財の数々を展示した。

還ってきた流出文化財として、戦争や移民、出稼ぎなどの社会変動によって多くの文化財が海外に流出したが心ある人びとの理解と努力によって沖縄に帰還した文化財も少なくない。ハンナ少佐、デービス軍曹・吉里弘、伊福盛寿、琉米歴史研究会、各氏これらの文化財を一堂にそろえて紹介した。

廃墟の中から作り出された生活用品として、人びとの奇抜な創意工夫によって軍用品を生きるための道具に転用した品々（ジュラルミン製品、米軍物資とその改良品など）を、復元した規格住宅において紹介し、生活用品を通して眺めた沖縄の戦後史を再現した。

米軍支配下の県民生活は、圧倒的なアメリカ文化の洪水と琉米親善政策の中でも、琉球の伝統文化を復興させ、外来文化を転用させつつチャンプルー文化を創造してきた沖縄の文化的エネルギーを具体的に展示紹介した。A サイン証、A サインバーの看板、ジュークボックス、US 製品、第1回エイサー・コンクール、伝統芸能の祭典、バーサージンワンピースなどなど。旧祖国復帰協議会の資料、反戦平和資料館「ヌチドゥ宝の家」の写真などをもとにしながら、米軍支配下の社会状況と日本復帰までの県民運動の足跡をたどるこによって、県民の平和創造の精神をとらえた。

これら沖縄戦後史に関する展示は、戦後の生活の変遷や激動の時代の流れを概観することによって現在をみつめ未来を展望するための歴史資料を展示した。最後のコーナーには、復帰前にパスポート申請書に添付された数万に及ぶ顔写真を展示し、観覧者の注目を集めた。

## II 「もう一つの沖縄社会」

米国移民の子孫達が父祖の遺品として伝承してきた文化財も多い。沖縄の文化財を多角的に評価し、保存に努力された海外の関係者に感謝の意をこめて、移民関係にともなう品々を紹介した。資料は、ハワイ沖縄センター、北米沖縄県人会などの在米国の団体の協力とともに、県内の宜野座村立博物館、金武町教育委員会など海外へ移民を数多く輩出した地域の資料、ならびに石垣市在の大底悦氏（南洋諸島関係）など個人の方々の資料を借用して構成した。

## III 「海を渡った文化財－在米国沖縄関連文化財－」

米国の美術館や個人コレクションの中に、沖縄関係の優れた美術工芸品が大切に保存されていることが県の調査で明らかになってきた。これらの文化財は、日本とは別に「琉球」としてコーナーを分けて展示され、一つの国ないしな民族の文化として扱われている事例も少なくない。

今回の展示会では米国の西海岸及びハワイに地域を限定し資料を借用した。ホノルル美術館、ビショップ博物館（ホノルル）、ロサンゼルス・カウンティ美術館、福田経子（故与那嶺真淳）コレクション（ホノルル）、ヨナハラ・リョウエイコレクション（マウイ）をコレクション毎に展示紹介した。

展示の柱が3本あり、戦後資料、移民資料、美術工芸資料と内容の異なる組み合わせで、展示にはかなりの労力を要した。一口に戦後資料とはいっても、50年間の膨大な社会事象を包含していて、恒例の1週間の展示作業は従来より増して難渋した。一方では、海外からの資料借用と付きそう学芸員への対応で、直前まで気がゆるせい日程であった。

開会式では、復元された文化財として、戦後50周年を記念して旧国宝の「波上朝鮮鐘」を復元し、これを”甦る沖縄”的シンボルとして展示し、平和への祈りを込めて打ちならした。

期間中、約1万5千人余の観覧者があり、復元の規格住宅に展示された終戦直後の生活用品、川での洗濯風景やDDT散布の写真に懐かしげに見て話し込む人たちが数多くあった。また、慰霊の日は入館無料だったこともあり約1,300名、また最終日にも約1,200名の入館者があったが、残念だったのは、学期末の時期もあってか、ぜひ見てもらいたい多学校の団体見学が少なかつた点である。夏休みに入ると、親子連れの見学者であふれていた。

感想文には、「大変よかったです。資料豊富で、ぜひ県民・国民全体でみてほしい。」「父がなにげなく子どもの頃の世界だった。私の祖父は宮古で民具をつくっているので、祖父にも見せたかった。来年もあつたらよいですね。」などの意見が多く寄せられた。

また、今回の展示会では在米の沖縄文化財が里帰りし、目の前でつぶさに実見する機会にめぐまれた。借用した琉球漆器の中には、収蔵先で「琉球漆器」として登録分類されているが、実際に借用てきて、専門家つぶさに観察してもらった結果、琉球漆器とはいえないものもでてきた。反省もあるが、一つの収穫ともいえる。特別展にともなう資料借用交渉と借用・返却業務、さらに会期中には、米国の博物館・美術館関係者、沖縄県人会の方々の来館が頻繁にあり、県立博物館の今後のネットワークづくりに一石を投ずるものと考えられる。

#### [関連催事など]

##### ①博物館文化講座

6月24日 特別講演「米軍統治下の言論統制」門奈直樹（立教大学教授）

7月2日 親子戦跡めぐり 村上有慶（沖縄平和ネットワーク会員）

石原恭枝（沖縄平和ネットワーク会員）

7月15日 「沖縄戦から50年」 大城将保（県立博物館学芸課長）

7月21日 「廃墟の中から甦った沖縄芝居を語る」 真喜志康忠

※7月21日の講演は台風接近にともない中止

##### ②博物館シアター～映像で考える戦争～

4月23日 「はだしのゲン」

5月21日 「アンネの日記」

6月25日 「沖縄戦1フィート運動の会フィルムー未来への証言」

#### [入館料金]

大人・大学生 500円（400円）

中学生・高校生 200円（160円）

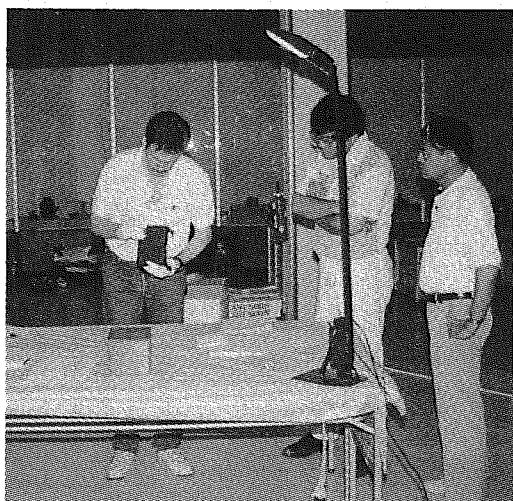
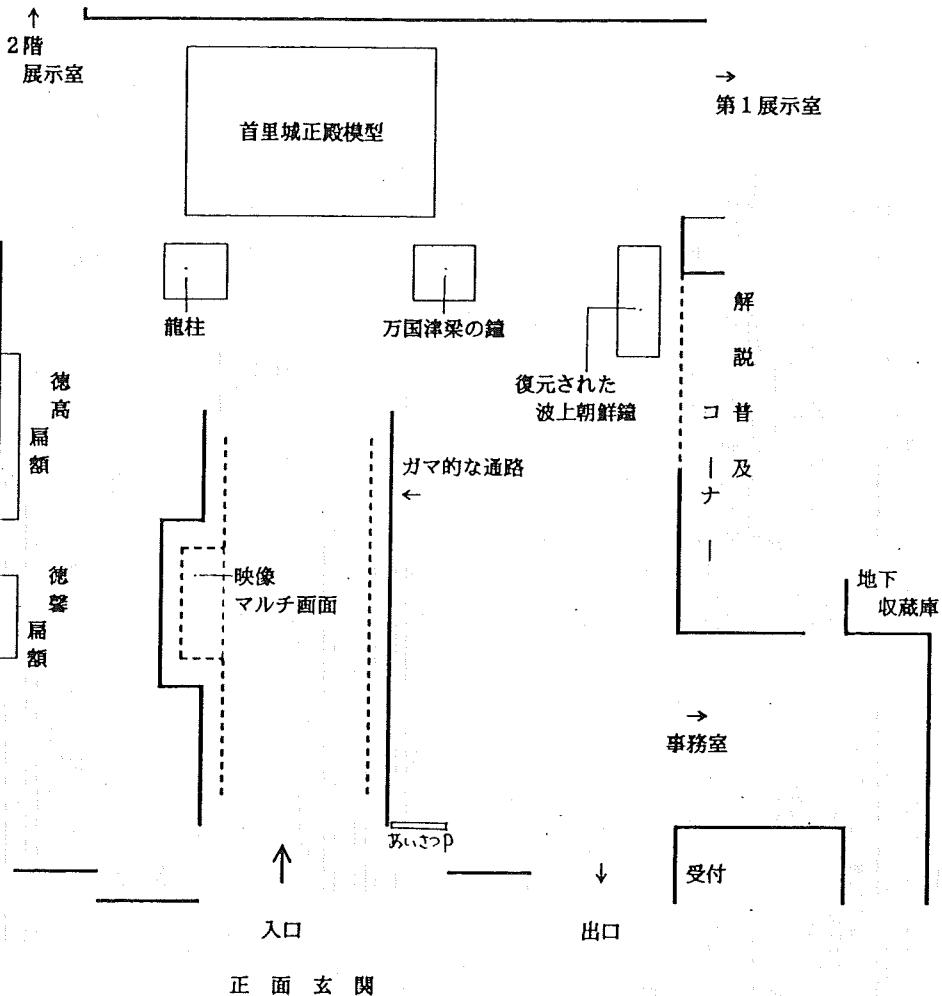
小学生 100円（80円）

※（ ）内の料金は20名以上の団体割引

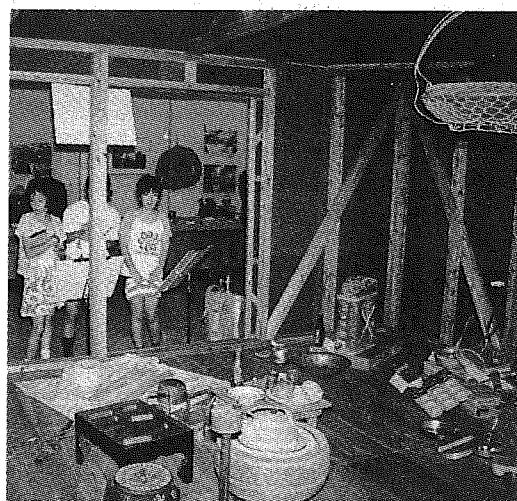


開会式のテープカット

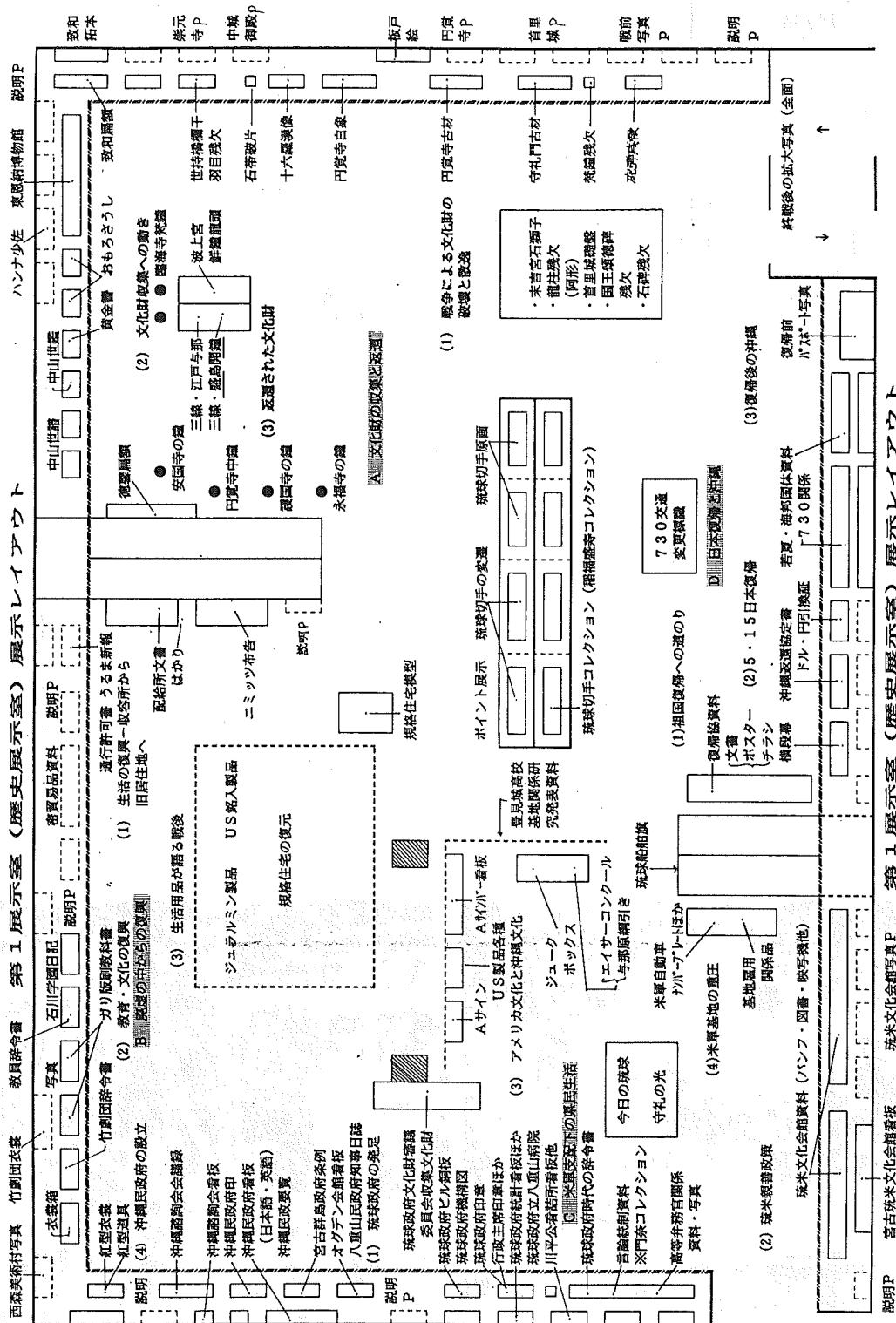
## ロビー（アプローチ）展示レイアウト



在米文化財の開梱点検作業



規格住宅の中を見入る子どもたち



第1展示室（歴史展示室）展示レイアウト

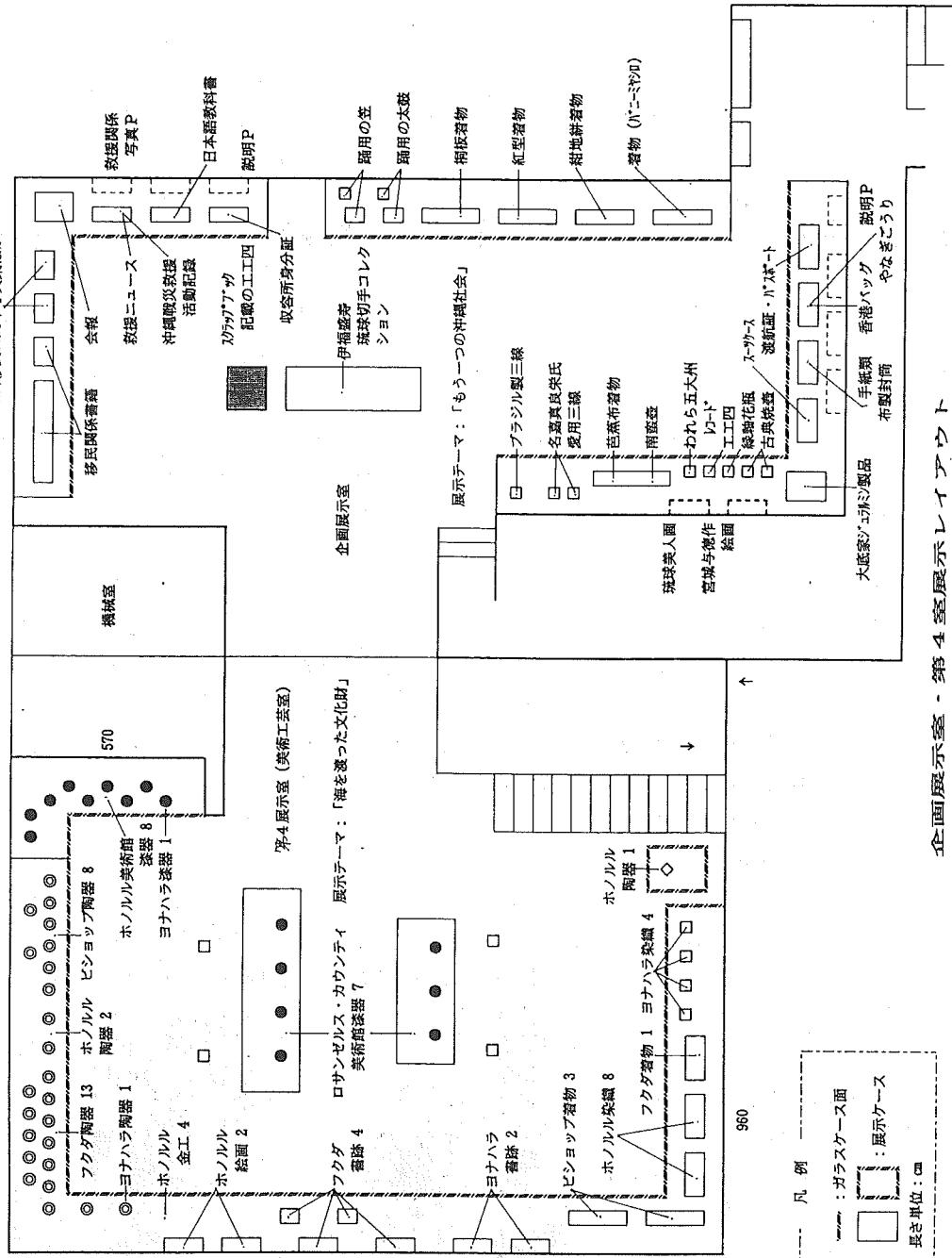
琉米文化会館写真 P

宮古琉米文化會館看板

卷之三

仕切パネル

1390



- 31 -

### 3 企画展

#### 平成 6 年度「新収蔵品展」(担当:久貝勝盛、與那嶺一子)

会期:平成 7 年 8 月 15 日(火)~9 月 3 日(日)

会場:企画展示室及び第三展示室

##### 〈開催趣旨〉

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈され、収集し、購入された資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の博物館活動に役立てることを目的として実施するものである。

〈展示内容〉もと横浜国立大学教授、長谷川善和氏より寄贈されたシカ類を中心とする化石約 25,000 点の一部をはじめ熊本県在住の三島格氏から約 2,000 点の考古資料の一部、ハワイ在住のジュン・新川氏、ロサンゼルス在住のベティ・イワタ氏、ジョージ・宮城氏等からの OKINAWA Isle of Smiles、終戦直後の沖縄絵はがき、高等学校団碁講義録等の戦後歴史資料、那覇市在住の島袋直江氏からの芭蕉絹縞上衣等の民俗資料、沖縄市在住の照喜名敏子氏からの絹深浅地縫縫上衣等の美術工芸資料が展示された。

購入資料として、久米島金券、八重山認印紙幣、琉球人行列附等の歴史資料、レプリカとして、956 年に韓国で鋳造され、戦前には旧国宝、重要美術品に指定されていた旧波上宮朝鮮鐘や奉使琉球図(部分レプリカ)等を複製し展示した。

##### 〈展示目録〉

寄贈の部:リュウキュウジカの角、ミヤコノロジカの頭骨、リュウキュウムカシキヨンの下顎骨、ミヤコジカの上腕骨、ミヤコジカの骨折後癒着した変形大腿骨、シカ類の寛骨、コハクチョウ、フルマカモメ、シラオネッタイチョウ、正書出師表、パッチとメンコ、老後家中記、芭蕉絹縞上衣、木綿紺地縫文様上衣(敷瓦文様イタチ取り箱、手まり)、絹深浅地縫縫上衣、トカラ中之島採集の石鍋破片、宮古平良市狩俣採集の鉄滓、西表平西貝塚採集の染め付け破片等

購入の部:旧波上宮朝鮮鐘(レプリカ)、琉球人行列附他、久米島金券(一円)、久米島金券(10 銭)、久米島切手、八重山金券等

なお、展示に際しては図録、「平成 6 年度新収蔵品展」を刊行し、その中で主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。同目録は、「沖縄県立博物館年報 No.28」にも掲載されている。

##### 〈開会式及び感謝状授与式〉

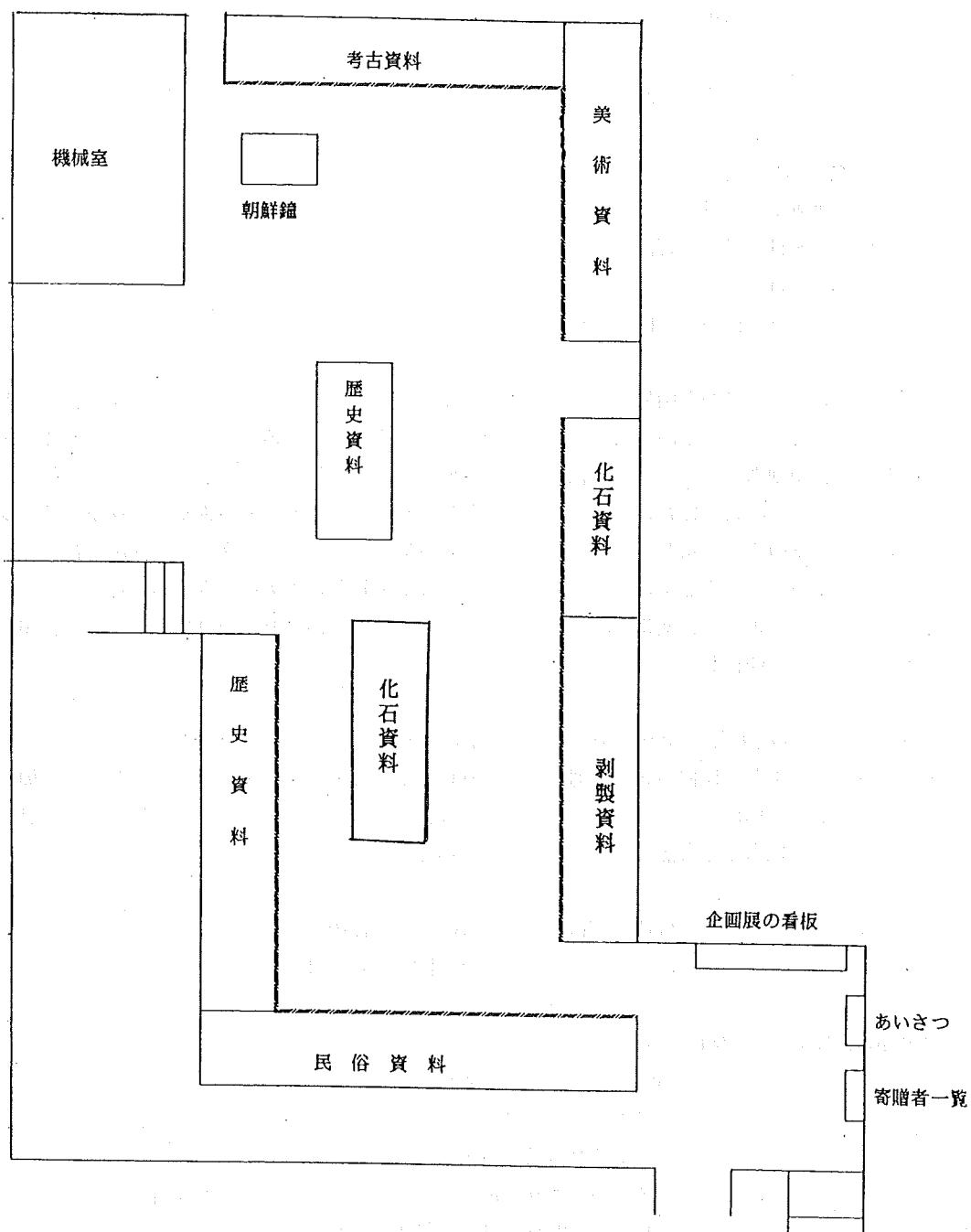
平成 7 年 8 月 15 日(火)午前 10:00 館長室にて、寄贈者(長谷川善和氏)への教育長による感謝状贈呈式を行った。その後、午前 10:30 に企画展示室入り口で開会式及びテープカットが行われ、企画展・平成 6 年度「新収蔵品展」が開会した。



新収蔵品展オープニング

# 企画展示室レイアウト

「平成 6 年度新収蔵品展」



## 4 移動博物館

### 第19回移動博物館

会期：平成7年11月18日（土）・19日（日）

会場：渡嘉敷村中央公民館

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・渡嘉敷村・渡嘉敷村教育委員会

### 第20回移動博物館

会期：平成7年11月25日（土）・26日（日）

会場：国頭村立総合体育館

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・国頭村・国頭村教育委員会

【趣旨】本県はわが国最南端に位置し亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし歴史的に日本本土や中国、東南アジアとの交易を盛んに行った地域であり、琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の歴史と文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第19回は渡嘉敷村においてまた、20回を国頭村において開催した。

【内容】〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈文化講座〉〈自然観察会〉で構成した。展示は考古・歴史・自然・美術工芸・民俗の5分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた。また、展示会場にビデオ放映コーナーを設け沖縄の伝統工芸や自然に関するビデオを放映した。さらに、文化講座や自然観察会も合わせて実施した。

〔ビデオ放映〕 「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラパゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」他

〔文化講座〕 19回 日時：11月18日（土）午後7時～9時

場所：渡嘉敷村立 渡嘉敷小中学校

対象：学生、一般

演題：「渡嘉敷の昆虫たち」

講師：小浜継雄（沖縄県立ミバエ対策事業所 主任研究員）

20回 日時：11月26日（日）午後4時～6時

場所：国頭村立総合体育館

対象：小・中学生、一般

演題：「おもろさうしにみる国頭」

講師：波照間 永吉（沖縄県立芸術大学 教授）

- 〔自然観察会〕 19回 日時：11月19日（日）午前9時～11時  
 対象：小・中学生、一般  
 講師：瀬名波 任（県立博物館 指導主事）  
 嵩原 建二（県立博物館 指導主事）
- 20回 日時：11月26日（日）午前9時～11時  
 対象：小・中学生、一般  
 講師：久貝 勝盛（県立博物館 指導主事）  
 嵩原 建二（県立博物館 指導主事）

〔入場者数〕	19回	展示会	367人			
		文化講座	56人	小	計	452人
		自然観察会	29人			
	20回	展示会	809人			
		文化講座	60人	小	計	912人
		自然観察会	43人	合	計	1,364人

〔予算〕 国庫補助を得て、総額6,389,000円。内訳は、諸謝金（38,000円）、旅費（1,082,000円）、需用費（1,250,000円）、通信運搬費（4,019,000円）。

### 〔展示品目録〕

#### 【考古】

港川人想定復元全身像、港川人頭骨《複製》、大山式土器（国指定史跡大山貝塚出土）、外耳土器（平久保遺跡出土）、青磁碗・皿（国指定史跡首里城跡出土）、青磁碗（国指定史跡勝連城跡出土）、宇佐浜式土器、石斧（沖縄県内出土）

#### パネル

黒潮の文化、勝連城跡、具志川城鳥瞰図、首里城跡（写真）、今帰仁城跡（写真）、貝塚の写真、発掘風景の写真、ゴホウラ貝の出土状況、貝の道、豎穴住居跡、渡具知東原遺跡の写真

#### 【歴史】

#### 拓本・パネル

明孝宗より尚真王あて勅書、万国津梁の鐘銘文、円覚禪寺記、国王頌徳碑、安國山樹華木之記碑、ようどれのひのもん（表）、金剛山碑、南無阿弥陀仏碑、山北今帰仁監守來歴碑記、改決羽地川碑記、三府龍みやく碑記

#### 古錢類

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、成豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、嘉泰通宝、開禧通宝、瑞平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、乾隆通宝、咸字元宝、天聖元宝、鳩目錢、寛永通宝、金円世宝・世高通宝・大世通宝

#### 勾玉類

リング1（10個連）、リング2（20個連）、リング3（8個連）、リング1（8個連）、リング1（小勾玉にビーズ付き）、リング1（ビーズ）

#### 印 章

尚育王の印

### 金工品

かんざし（一括）

### 典籍類

おもろさうし（複製本）<巻1・10・17>、中山世鑑（複製本）<巻1・3・4>、琉球三省並三十六島図（朝鮮琉球全図）、沖縄志<巻1・2>、江戸上行列（瓦版）、渡闖航路図

### その他

尚寧王妃墓誌、ランドサット沖縄諸島（写真）

### 写真パネル・

#### ～戦前の沖縄～

〈鎌倉芳太郎撮影〉

初代尚円王御後絵、13代尚敬王御後絵、首里城正殿、円覚寺仏殿、首里那覇全景

〈坂本万七撮影〉

円覚寺山門、識名園、玉陵、ハンタン山、サーダークルマ、竹製品を運ぶ荷馬車、那覇東町の布町、木臼つくり、壺屋風景、壺屋の陶房、茅（う）びき、ふろしき糊引き（那覇久茂地）市場風景、カメを売る店、魚市、青空教室、葬式行列、墓（那覇辻原）

#### ～沖縄戦写真～

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

#### ～戦後から現在～

波之上宮、憔悴しきった老人、DDT散布、戦後のヤミ市、ハワイよりの衣類到着、首里汀良・当蔵のカバヤー、洗濯風景、城前小学校での演芸会、スクラップブーム、軍政府文教部、第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、A サインバーの内部・沖縄市、宮森小学校ジェット機墜落事故、B52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、海洋博覧会開幕、海邦国体開会式

### 【自然史】

#### 古生物

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）恐竜の卵の化石、タルボサウルス、コレニア、サウロロフス（全身骨格／第20回のみ展示）

#### 沖縄の生物

〈写真パネル・～天然記念物～〉

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、ナミエガエル、ホルストガエル、イボイモリ、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、カンムリワシ、ケラマジカ、イリオモテヤマネコ、ノグチゲラ、ダイトウオオコウモリ

〈写真パネル・～野鳥～〉

コチドリ、バン、セッカ、コサギ、シロハラクイナ、メジロ、ヒヨドリ、クロサギ、シロハ、ミフウズラ、リュウキュウヨシゴイ、セイタカシギ、サンコウチョウ、ダイシャクシギ、ズアカアオバト、ササゴイ、タゲリ、カワセミ、イソヒヨドリ、ハクセキレイ、ムナグロ

## 剥製標本

タグリ、ゴイサギ、シロハラクイナ、ヤマシギ、ノグチケラ、ヒクイナ、アカショウビン、ヤンバルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、コガモ、サンコウチュウ、ヨタカ、オリイオオコウモリ、カルガモ、シロハラ、ズアカアオバト、コノハズク、サシバ、カラスバト、オオコノハズク、ハブ、キンバト、トラツグミ、イリオモテヤマネコ

## 【美術工芸】

### 漆 器

黒漆山水樓閣螺鈿六角食籠

### 陶 器

#### 〈壺屋焼〉

緑釉嘉瓶、赤絵徳利、アンダガーミ、釣彫抱瓶、飴釉流なまこ釉香炉、白釉黒流からから、緑釉花弁型盛皿、呉須絵山水竹文筒花生

#### 〈湧田焼〉

鉄絵碗

### 絵 画

樹下織婦図、魚壳りの図

### 彫 刻

玉陵石彫獅子（レプリカ）1対

### 書 跡

短歌「雪中子日（宜湾朝保）、短歌「恋妨学問（　　）、孟浩然五言絶句「宿建德江」（古波藏爾方）

### 織 物

芭蕉総絣上衣（平良敏子作）、木綿紺地花織ティサージ、御絵図（復元）

### 紅 型

絹浅地稻妻に花の丸文様衣裳（復元）、紅型型紙

## 【民 俗】

### 沖縄の祭り（写真パネル）

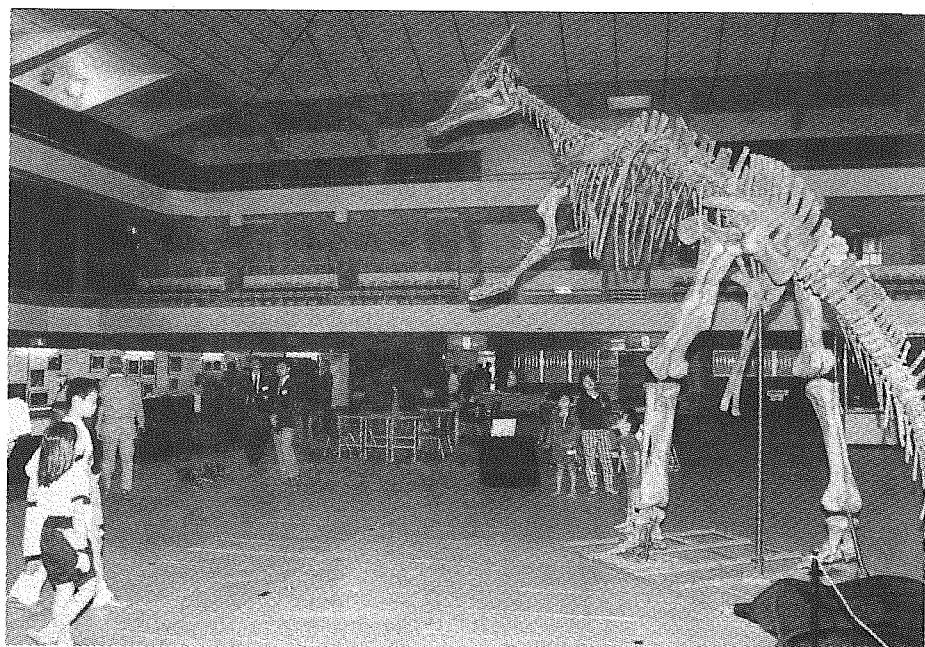
久高島の旧正月、玉城村仲村村渠のウェーダ、伊是名の土帝君、那霸市鏡水の三月遊び、城辺町のナーバイ、大里損古堅のミーミンメー、渡嘉敷島のシマノーシ、渡名喜島のシマノーシ、多良間島のスツウプナガ、糸満のハーレー、伊江島のウブユミ、久米島の六月ウマチー、知名のヌーバレー、安田のシヌグ、国頭村奥のシヌグ、国頭村比地のウンジャミ、石垣市登野城アンガマ、名護市屋部の八月踊り、多良間島の八月踊り、平良市島尻のパーティトゥ、西表島祖納の節祭り、川平のマユンガナシイ、与那国カンブナガ、久高島のイザイホー①、久高島のイザイホー②、宮古のウサガン

### 漁獵用具

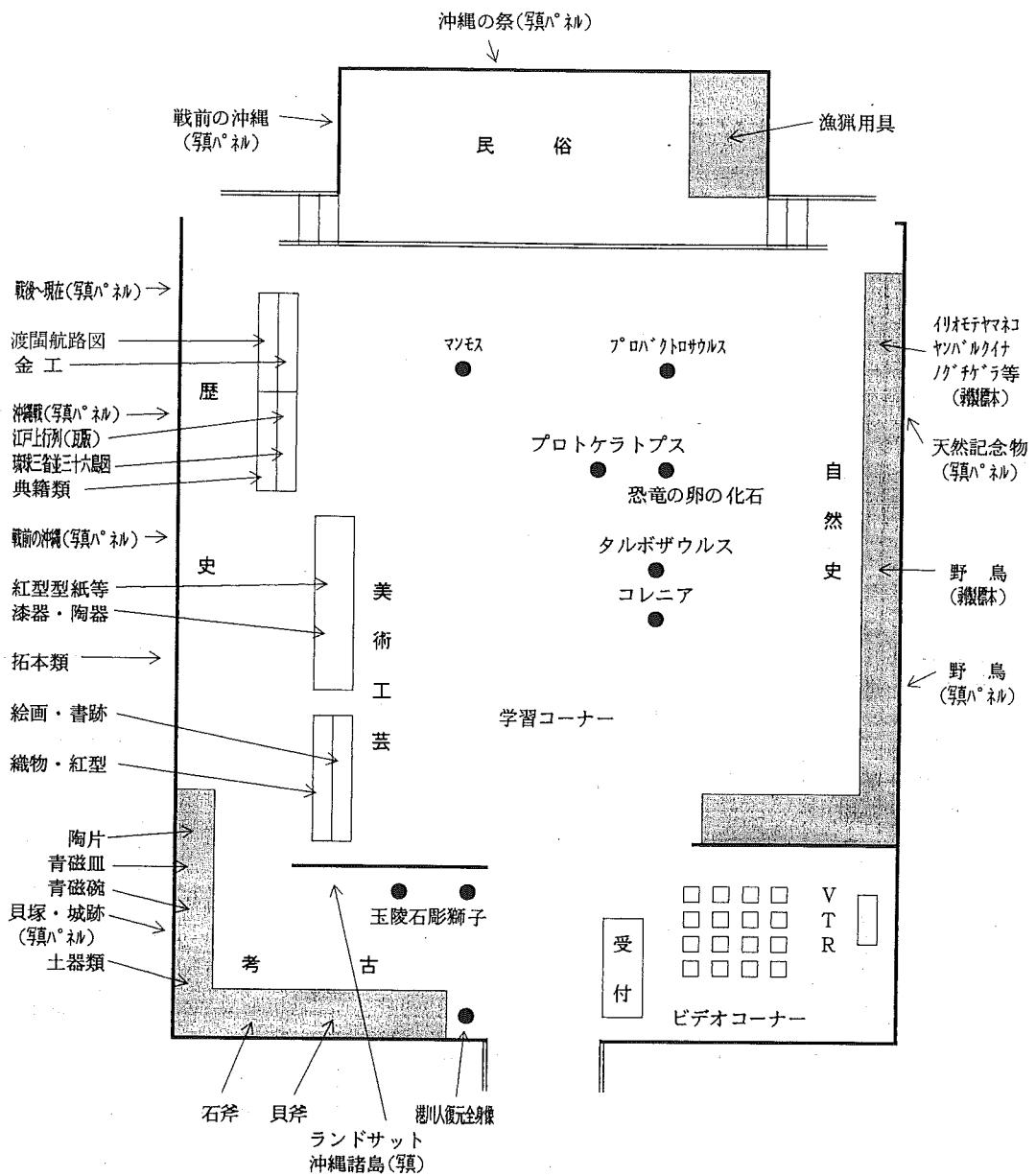
海ボーチャー、チズカ、ワラグチ、ユートウイ（伝馬）、ユートウイ（糸満）、チーバク、スルチカ一石、タマンバーキ、海ディール、ミーカガン、タマウキ、ウミフゾウ



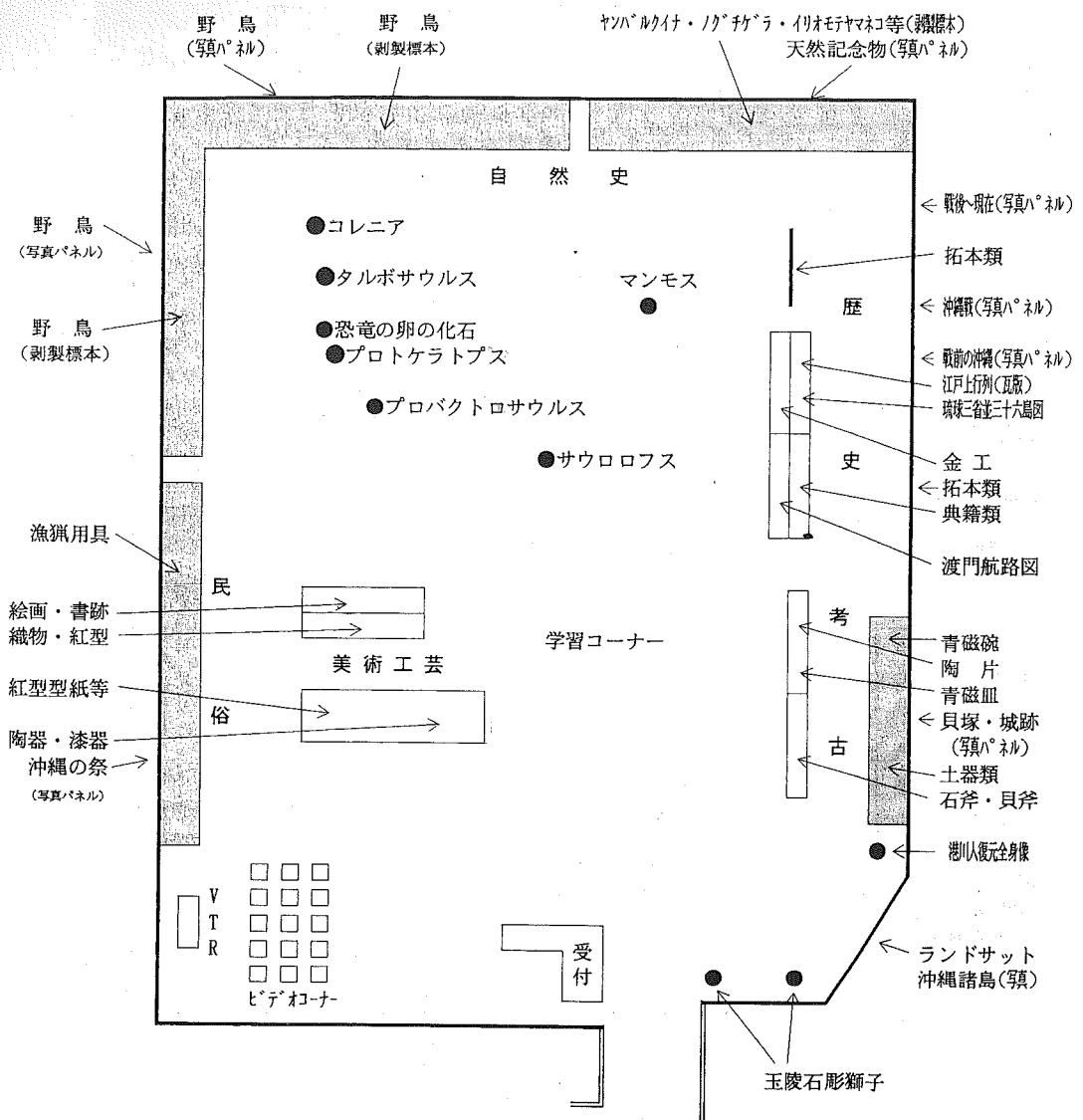
第19回　（渡嘉敷村）展示風景



第20回　（国頭村）展示風景



第19回 移動博物館展示略図  
(渡嘉敷村中央公民館)



第20回 移動博物館展示略図  
(国頭村立総合体育馆)

## 5 海外での展示活動

### 米国ロス市在民芸工芸博物館共催事業

会期：平成7年11月10日～平成8年1月14日

会場：ロス市在民芸工芸博物館 CRAFT & FOLK ART MUSEUM IN LOS ANGELES

開催形式：主催 民芸工芸博物館・沖縄県立博物館／後援 北米沖縄県人会

#### 〔事業の目的〕

沖縄の歴史と文化を米国市民に理解してもらう目的で、沖縄県立博物館と米国ロス市在の民芸工芸博物館との共催で、琉球王国時代から続く伝統的染織衣裳を中心とした展示会を開催する。また、平成7年は、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年でもあり、衣裳の展示に併せて、戦災によって破壊された沖縄や廃墟の中から復興した沖縄を写真パネルで紹介する。

このように、沖縄の文化財や戦災から復興した沖縄を米国市民にアピールすることは、沖縄の歴史と文化について理解を深めるとともに、国際交流に貢献し、また基地問題の解決の一助にもなるものと思われる。

#### 〔事業の内容〕

展示会名称：「ドラゴンの輝き—琉球王国（沖縄）の衣装」

“Splendor of the Dragon: Costumes of the Ryukyu Kingdom”

展示会趣旨：この展示会は、アメリカ大陸において、沖縄の密度の高い芸術作品が展示公開される最初の機会である。

沖縄の染織は、衣装デザインや織り、染めの技術の素晴らしさを象徴するものとして、学者、専門家ではよく知られている。

このみごとな作品の仕上がりは、丹精を込めた紅型技法を駆使したり、苧麻、芭蕉でつくられる纖維に挑戦してきた沖縄の職人たちにより成し遂げられたものである。

この染織は、中国や日本からの歴史的な影響のみならず、沖縄の人々の忍耐力、固有の精神的、美的な価値をも洞察させるものである。

展示内容：A 琉球王国（沖縄）の衣装

沖縄県立博物館からの借用資料に、民芸工芸博物館の所蔵資料及び個人資料を加えた85点の資料が展示された。

展示室にはビデオエリアと体験エリアを設た。

B 写真で見る沖縄の姿

関連催物：芸能講演

日時：1995年11月10日（金）

\*県人会芸能部の上演などによる展示会の開会式

## 講 演

日時1995年11月11日（土）

1. 「紅型の歴史と技法」

講師：與那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）

2. 「琉球の絣」

講師：MARY DUSENBERY（スペンサー美術館学芸員）

3. 「展示解説会」

講師：グロリア・ゴーニック（民芸工芸博物館学芸員）

## 教 室：紅型勉強会

日 時：1995年11月12日（日）

講 師：神谷クリスティーナ

## 講 演

日 時：1995年11月21日（火）

講 演：「沖縄：衣装の歴史」

講 師：グロリア・ゴーニック（民芸工芸博物館学芸員）

## 講演とパネルディスカッション

日 時：1995年12月3日（日）

講 演「沖縄の歴史」

講 師：崎原 貢（ハワイ大学教授）

## ファミリーフェスティバル

日 時：1995年12月10日（日）

## ワークショップ：ファミリーヒストリー

日 時：1996年1月7日（日）



開会式



展示風景

## V 教育普及活動

### 1 活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命とするが、来館者の知的、文化的な欲求を充足できるよう地域における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とくに最近の傾向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的をもって来館している。

このような来館者の要求に少しでも多く応えていくため、当館では今年度も多く博物館事業を実施してきた。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう、戦後50年を迎えるにふさわしい内容等も取り上げながら、多彩な事業を計画し実施してきた。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（248回～259回までの12回）
2. 第19回移動博物館（渡嘉敷村）・第20回移動博物館（国頭村）の開催
3. 夏休み「歩く・見る・作る」教室の実施
4. 子ども体験学習教室の実施
5. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
6. ボランティア活動事業
7. 博物館を利用する団体への研修
8. 観覧者への展示解説
9. 学校による博物館学習の事前打ち合わせ
10. 児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
11. 児童生徒への学習相談
12. 団体見学者へのビデオサービス
13. 博物館事業のマスコミ等への広報活動
14. 友の会への指導や援助

### 2 博物館講座

#### 第248回 「在米国沖縄関連文化財について」

講 師：園原 謙（県教育庁文化課専門員）

日時・場所：4月15日（土） 当館講堂

内 容：県文化課で調査を行った、米国内にある沖縄関連文化財について紹介した。

参 加 者：47名

#### 第249回 「韓国の綱引き」

講 師：津波 高志（琉球大学教授）

- 日時・場所：5月20日（土） 当館講堂  
内 容：沖縄の綱引きとよく似ていると言われる韓国の綱引きを、その社会的、  
信仰的背景から解説した。  
参 加 者：73名
- 第250回 「米軍統治下の言論統制」（特別文化講座）  
講 師：門奈 直樹（立教大学教授）  
日時・場所：6月24日（土） 当館講堂  
内 容：米軍統治下に受けた言論統制について、当時を振り返り、考察した。  
参 加 者：50名  
「親子戦跡めぐり」（特別展関連行事）  
講 師：村上 有慶（沖縄平和ネットワーク事務局長）  
石原 恭枝（沖縄平和ネットワーク会員）  
日時・場所：7月2日（日）  
内 容：親子で戦跡を訪ね、平和の尊さについて考えた。  
参 加 者：50名（定員あり）
- 第251回 「沖縄戦から50年」  
講 師：大城 将保（当館学芸課長）  
日時・場所：7月15日（土） 当館講堂  
内 容：第2次世界大戦で壊滅状態に陥った当時の沖縄から戦後50年目をむかえた現在までをふりかえった。  
参 加 者：90名
- 第252回 「戦跡考古学」  
講 師：當眞 喬一（当館教育普及課長）  
日時・場所：8月19日（土） 当館講堂  
内 容：沖縄戦の実相を考古学的に記録する「戦跡考古学」を提唱した講師自身  
がその内容や方法論について紹介した。  
参 加 者：86名
- 第253回 「アメリカの美術館」  
講 師：翁長 直樹（県観光文化局文化振興課主査）  
日時・場所：9月16日（土） 当館講堂  
内 容：アメリカの美術館の現状を報告し、これからの美術館の在り方を紹介した。  
参 加 者：68名
- 第254回 「歴史の道を歩く」  
講 師：萩尾 俊章（当館学芸員）  
日時・場所：10月21日（土） 首里周辺  
内 容：首里に残る歴史の道を歩くことで、歴史の追体験を行った。  
参 加 者：50名（定員あり）
- 第255回 「野鳥に親しむ」  
講 師：嵩原 健二（当館指導主事）  
久貝 勝盛（当館指導主事）

- 日時・場所：11月11日（土） 漫湖干潟  
内 容：県内最大の干潟がある漫湖公園に飛来してくる野鳥を観察しながら、自然に親しむ方法を学んだ。
- 参 加 者：30名（定員あり）
- 第256回 「中国からきた風水思想」  
講 師：小熊 誠（沖縄国際大学教授）  
日時・場所：12月16日（土） 当館講堂  
内 容：中国からきた風水思想の歴史的背景や沖縄でみられる風水思想について紹介した。  
参 加 者：202名
- 第257回 「遺跡めぐり」  
講 師：當眞 嗣一（当館教育普及課長）  
日時・場所：1月27日（土） 大山貝塚・荻堂貝塚  
内 容：国指定の大山貝塚と荻堂貝塚を見学しながら沖縄の先史時代について学んだ。  
参 加 者：45名（定員あり）
- 第258回 「イリオモテヤマネコの生態」  
講 師：伊澤 雅子（琉球大学助教授）  
日時・場所：2月17日（土） 当館講堂  
内 容：西表島にすむイリオモテヤマネコの生息状況と生態について最近の研究成果に基づき、その実態に迫った。  
参 加 者：58名
- 第259回 「中琉歴史関係について」  
講 師：糸数 兼治（当館館長）  
日時・場所：3月16日（土） 当館講堂  
内 容：中国との交流で様々な影響を受けた琉球について、文書にみられる両国の関係を中心に紹介した。  
参 加 者：146名

### 3 夏休み「歩く・見る・作る」教室

- 「サンゴ礁の生きものたち」  
講 師：横井 謙典（海洋写真家）  
日時・場所：7月22日（土） 北谷町砂辺  
内 容：実際に現地に行って、潮干帯にすむさまざまな生きものを観察しながら自然に親しむ機会をもつ予定であったが、台風のため中止した。  
参 加 者：親子15組を予定した。
- 「親子スケッチ会」  
講 師：瑞慶山 昇（当館指導主事）  
與那嶺一子（当館学芸員）

日時・場所：7月23日（日） 龍潭周辺

内 容：龍潭周辺で風景画を描きながらスケッチの仕方を学習する予定であったが、台風のため中止した。

参 加 者：小4～小6の親子15組を予定した。

#### 「豆腐作り」

講 師：山中 久司（座間味村教育委員会社会教育主事）

日時・場所：8月26日（土） 当館前庭

内 容：今ではほとんどの家庭で作られなくなった豆腐を、昔ながらの方法で実際に作ってみた。

参 加 者：親子15組

## 4 子ども体験学習教室

### <事業の経過>

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度から博物館の新規事業として開始、本年度で4年目に入った。

### <趣 旨>

平成4年度から第2土曜日が学校休業日になり、さらには平成6年度からは第4土曜日も学校休業日となった。それにともない子どもたちの活動の機会も増えてきた。当館でも「休業日」を利用して子どもたちが郷土や自然、文化を自ら進んで学べるように平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験の乏しくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し、心豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

### <実施講座>

#### 「植物標本を作ろう」

講 師：島袋 守成（元仲泊小学校教頭）

日時・場所：5月13日（土）、6月24日（土）、6月25日（日）当博物館講堂

参 加 者：のべ147名

内 容：植物標本について学んだことをもとに標本を作成し、自由研究への活用の仕方を学んだ。

#### 「漆喰でシーサーを作ろう」

講 師：金城 登（首里高校教諭）

日時・場所：7月8日（土）、8月12日（土）、8月14日（月）当博物館講堂

参 加 者：のべ198名

内 容：シーサーについて学んだことをもとに小さなシーサーや大きなシーサーを作った。

### 「土器を作ろう」

講 師：比嘉 賀盛（沖縄市郷土博物館調査員）  
日時・場所：9月9日（土）、10月14日（土）、11月11日（土）当博物館講堂  
参 加 者：のべ108名  
内 容：沖縄の土器について学び、土をこね、土器を作り、野焼きをし、できあがった土器を使って海老の煮炊きを行った。

### 「祭りの仮面を作ろう」

講 師：外原 淳（沖縄玩具伝承の会）  
日時・場所：12月9日（土）、1月13日（土）、2月10日（土）当博物館講堂  
参 加 者：のべ96名  
内 容：沖縄の祭りに使われている仮面について学び、粘土で仮面を作り、焼いた後ハトロン紙を張り付け、できあがった仮面に模様をつけて完成させた。

## 5 ボランティア活動

### <ボランティア活動の事業の経過>

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これにもとづき教育ボランティアと資料収集ボランティアの育成に努めてきた。

教育ボランティアは、展示解説、文化講座、体験学習教室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。

資料収集ボランティアは調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。

ボランティアとして登録できるものは、原則としてボランティア養成講座を修了した者とし、登録後は解説勉強会で研修を受けながら、活動を続けてきた。

### <趣 旨>

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。このような時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とすることを目的として、本事業を実施した。

### <事業の実施>

平成7年度も県教育庁生涯学習振興課主催の教育ボランティア養成講座の運営に参画し、その修了者の中からボランティアの登録を進めていった。

#### 1. 教育ボランティア養成講座（受講者：47名）

##### 「昆虫少年は今……」

講 師：仲宗根和則（琉生病院副院長）  
日 時：7月12日（水）  
内 容：沖縄の蝶の話から、現代の子どもの遊びについてと幅広く話され、昆虫採集を通して、昆虫の生存状況について、具体的に考えられるような目を養うことが大切であることを学んだ。

## 「障害者から見た公共施設　—その現状と課題—」

講 師：仲嶺 貞夫（美崎養護学校長）  
日 時：7月19日（水）  
内 容：沖縄県における障害者の概況、各公共施設における障害者に対応した施設の普及状況、障害者から見た今後の公共施設のあり方を学ぶ。

## 「ゲスクをみる」

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）  
日 時：8月2日（水）  
内 容：首里城とその周辺を探検してみようということで、見学の意義、探検する際の心得、探検前の基礎的学習の必要性、主な文化財の名称と歴史用語について学習した。

## 「沖縄戦と住民　—後世に何を伝えるか」

講 師：石原 昌家（沖縄国際大学教授）  
日 時：8月8日（水）  
内 容：「平和を求める沖縄」を歴史的観点から捉え、沖縄戦の概要、沖縄戦の特徴を具体的に学ぶ中からその意義や理念について学んだ。

## 「北琉球の自然」

講 師：瀬名波 任、嵩原 健二（沖縄県立博物館学芸員）  
日 時：8月16日（水）  
内 容：山原に生息する国指定の動・植物について、取り巻く自然環境等の条件から考え、その学術的意義について学んだ。

## 「沖縄の陶器」

講 師：瑞慶山 昇（沖縄県立博物館学芸員）  
日 時：8月23日（水）  
内 容：沖縄の陶器の特徴やその歴史的な流れを、各地に残された窯元跡等を具体的に検証する中から学んだ。

## シンポジウム「これからの博物館」

講 師：与那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）、平良 次子（南風原文化センター）  
比嘉ひとみ（名護博物館）、宮里 正子（浦添美術館）  
日 時：9月6日（水）  
内 容：それぞれの館の活動状況と課題を報告し合い、受講者の皆さんに博物館の現況を理解し、互いに学び合うことができた。

## 2. ボランティアの登録

教育ボランティア養成講座の中から31名（教育ボランティア23名、資料収集ボランティア8名）がボランティアとしての登録を行った。

## 3. ボランティア専門講座

### 「博物館における接遇」

講 師：若松喜久美（葵インターナショナルスクール）  
日 時：10月11日（水）  
内 容：「仕事は自分を磨く場である。」との認識の基に、感じの良い言葉づかいの仕方とその意義、人を案内することの意義とそのやり方を学んだ。

### 「手話の基本」

講 師：知念喜代子（手話通訳者）  
日 時：10月25日（水）  
内 容：手話の基本を学び、さらに展示室で考えられる手話による対応について、実習を行った。

### 「手話の基本」

講 師：知念喜代子（手話通訳者）  
日 時：10月25日（水）、11月8日（水）、11月29日（水）、12月13日（水）、1月10日（水）  
内 容：展示室で考えられる手話による対応について、実習を行った。

### 「瓦づくり」

講 師：島袋 常文（大里瓦代表者）  
日 時：1月24日（水）  
内 容：島袋さんの作業場で、昔の道具を使って、実際に瓦づくりを学習した。

## 6 博物館を利用した研修

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然について多くのことを学びたいとの要望が高まってきた。これらの要望は、従来学校などの団体が多数しめてきたが、近年企業などからもその要望が高まってきている。

平成7年度は、企業などが自ら主催し且つ博物館での展示見学を計画している研修に対して、博物館での講演というかたちで側面的な支援を行ったり、博物館資料を活用した教育委員会の研修を博物館と共同で企画するなどの取り組みを行ってきた。

### ＜琉球銀行新入行員研修＞

#### 「琉球王国の誕生——グスクを中心」

日時・場所：1995年4月26日（水） 当館講堂  
講 師：當間 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

### ＜浦添市教育委員会博物館研修＞

#### 「博物館で何を学ぶか」

日時・場所：1995年8月30日（水） 当館歴史展示室  
講 師：前田 真之（沖縄県立博物館学芸員）

### ＜生涯学習振興課主催教育ボランティア養成講座＞

#### 「昆虫少年は今……」

講 師：仲宗根和則（琉生病院副院長）  
日 時：7月12日（水）  
内 容：沖縄の蝶の話から、現代の子どもの遊びについてと幅広く話され、昆虫採集を通して、昆虫の生存状況について、具体的に考えられるような目を養うことが大切であることを学んだ。

### 「障害者から見た公共施設 —その現状と課題—」

講 師：仲嶺 貞夫（美崎養護学校長）

日 時：7月19日（水）  
内 容：沖縄県における障害者の概況、各公共施設における障害者に対応した施設の普及状況、障害者から見た今後の公共施設のあり方を学んだ。

#### 「グスクを見る」

講 師：當眞 嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）  
日 時：8月2日（水）  
内 容：首里城とその周辺を探検してみようということで、見学の意義、探検する際の心得、探検前の基礎的学習の必要性、主な文化財に名称と歴史用語について学習した。

#### 「沖縄戦と住民－後世に何を伝えるか」

講 師：石原 昌家（沖縄国際大学教授）  
日 時：8月8日（水）  
内 容：「平和を求める沖縄」を歴史的観点から捉え、沖縄戦の概要、沖縄戦の特徴を具体的に学ぶ中からその意義や理念について学んだ。

#### 「北琉球の自然」

講 師：瀬名波 任、嵩原 健二（沖縄県立博物館学芸員）  
日 時：8月16日（水）  
内 容：山原に生息する国指定の動・植物について、取り巻く自然環境等の条件から考え、その学術的意義について学んだ。

#### 「沖縄の陶器」

講 師：瑞慶山 昇（沖縄県立博物館学芸員）  
日 時：8月23日（水）  
内 容：沖縄の陶器の特徴やその歴史的な流れを、各地に残された窯元跡等を具体的に検証する中から学んだ。

#### シンポジウム「これからの博物館」

講 師：与那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員）、平良 次子（南風原文化センター）、比嘉ひとみ（名護博物館）、宮里 正子（浦添美術館）  
日 時：9月6日（水）  
内 容：それぞれの館の活動状況と課題を報告し合い、受講者の皆さんに博物館の現況を理解し、互いに学び合うことができた。

## 7 博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

郷土の自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会と、音楽家による生演奏を内容とし、原則として毎月1回日曜日の午後2時より博物館講堂において実施している。

### シリーズ〔映像で考える戦争〕

第13回 映画「はだしのゲン」107分

期日：4月23日（日）

入場者：120名

内容：ひとりのわんぱく少年の姿を生き生きと描きながら、戦争のむごたらしさと原爆の恐ろしさを、さまざまに刻みつけて大きな反響を呼びおこした中沢啓治原作の劇画「はだしのゲン」を映画化した作品。

第14回 映画「アンネの日記」93分

期日：5月21日（日）

入場者：147名

内容：文部省特選作品で、第二次世界大戦にユダヤ人の少女アンネが書き残した日記をもとに戦争の惨たらしさを強烈に描いた作品。

第15回 映画「沖縄戦 未来への証言」60分

期日：6月25日（日）

入場者：180名

内容：第二次世界大戦の沖縄戦に関する、貴重な沖縄戦記録フィルムを構成してつくられた作品。

### シリーズ〔夏休み親子シアター〕

第16回 映画「野生のエルザ」95分

期日：7月30日（日）

入場者：124名

内容：世界的ベストセラーとなったジョイ・アダムソンのノンフィクションをTVドキュメンタリー出身のジェームズ・ヒルが感動をこめて映画化した作品。

第17回 映画「ペリカンと少年」65分

期日：8月20日（日）

入場者：130名

内容：目のみえないペリカンと少年の友情をえがいた物語で、ベニスグランプリ受賞。文部省選定作品。

### シリーズ〔名画劇場〕

第18回 映画「鉄道員」115分

期日：9月3日（日）

入場者：98名

内容：ピエトロ・ジェルミが監督・主演をおこない、庶民の日常生活をキメ細かに表現した哀感あふれる秀作。

第19回 映画「禁じられた遊び」85分

期日：10月1日（日）

入場者：101名

内容：ルネ・クレマン監督の作品で、ナルシソ・イエペソが音楽を担当。詩情ゆたかな反戦映画の傑作。

第20回 映画「自転車泥棒」93分

期 日：11月5日（日）

入場者：145名

内 容：監督のヴィットリオ・デ・シーカと脚本家のチューザレ・ザヴァッティーニのコンビが発表したネオレアリズムの代表的傑作。

**シリーズ [ミュージアムコンサート]**

第21回 演 奏「歌とギターで誘うわらべ歌の世界へ」60分

期 日：12月3日（日）

入場者：86名

講 師：福地泰邦、宮里優子

内 容：スペイン音楽演奏家である福地泰邦氏のギター演奏と、宮里優子氏の歌でミニコンサートを行った。

**シリーズ [黒澤明の世界]**

第22回 映 画「天国と地獄」144分

期 日：1月14日（日）

入場者：105名

内 容：貧富の階級的対立、社会の矛盾にたいする反抗、ひとりの人間の隣人にたいする責任、などの大きなテーマを投げかけた作品。

第23回 映 画「どですかでん」140分

期 日：2月4日（日）

入場者：75名

内 容：黒澤監督の人間哲学の真価をうかがえる作品で、画家出身の監督にふさわしい独特な色彩感による演出が特徴。

第24回 映 画「七人の侍」148分

期 日：3月3日（日）

入場者：230名

内 容：出演者の三船敏郎のサッソウたる映画的表現が、娯楽映画として高度なものをお出しし、黒澤的な世界が確立された黒澤監督の代表作の一つ。ベネチア映画祭銀獅子賞受賞。

## VI 収藏資料

### 1 収藏資料現在高

平成8年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	601	25,425	6	2	26,034	46,611
	動物	1,075	18,152	472	13	19,712	
	植物	15	850	0	0	865	
美術工芸	絵画	74	518	5	0	597	9,795
	書跡	505	858	48	3	1,414	
	彫刻	5	113	132	0	250	
	陶磁器	442	3,166	249	492	4,349	
	漆器	240	201	162	0	603	
	染織	1,083	1,489	10	0	2,582	
歴史資料		2,099	5,083	334	74	7,590	7,590
考古資料		8	3,572	975	15	4,570	4,570
民俗資料		2,370	1,169	580	78	4,197	4,197
総計		8,517	60,596	2,973	677	72,763	72,763

### 2 平成7年度(1995)新収藏資料高

平成7年4月1日～平成8年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	1	—	—	—	1	18
	動物	11	6	—	—	17	
	植物	—	—	—	—	0	
美術工芸	絵画	1	1	—	—	2	29
	書跡	—	2	—	—	2	
	彫刻	—	—	—	—	0	
	陶磁器	—	3	—	—	3	
	漆器	1	1	—	—	2	
	染織	7	13	—	—	20	
歴史資料		13	132	—	—	145	145
考古資料		—	—	—	—	0	0
民俗資料		—	323	—	—	323	323
総計		34	481	0	0	515	515

### 3 平成7年度(1995)新収蔵資料目録

寄贈の部

(平成7年4月1日~平成8年3月31日)

分類		品名	数量	寄贈者名	所在地
自然史	動物	ヤマネコ類(剥製)	1	新垣弘文	南風原町
	"	オオツヤウロコガイ	1	保田聖	名護市
	"	オナガ他	4		我孫子市
美術工芸	絵画	紙本著色「山水図」	1	宇地原徳淳	具志川市
	書跡	佐久本興吉書 他	2	比嘉篤	西原町
	陶磁器	高麗磁器	1	"	"
	"	繩巻壺 他	2		米国
	漆器	漆器(椀)	1	武富登	那霸市
	染織	シルチヨウ 他	8	城香	東京都
	"	苧麻城白地経緯絣文様のスカート	1	田都	宜野湾市
	"	木綿紺地格子縞に経浮花織柄上衣	1	平嗣	大阪府
	"	縮緬黄色地松に柳桜藤と飛燕水辺花	3	宮敏	
	"	鳥文様衣裳他			
歴史資料	日本軍の銃剣		1	長清	沖縄市
	德利 他		11	吉戸直	那霸市
	"	『琉球音楽新刊三味線乃工工四上卷』他	3	バニ・ミヤシロ	米国
	"	尋常小学国史上巻	1	ジュン・新川	米国
	"	新聞切抜スクラップ帳 他	18	逗子市編さん室	逗子市
	"	通貨交換申込書 他	2	翁長良明	那霸市
	"	復帰協バッジ 他	12	橋長俊	那霸市
	"	小学地理附図 他	12	伊藤勝一	読谷村
	"	沖縄復帰記念「新沖縄県案内地図」他	3	上原敏子	那霸市
	"	「役場・番所・蔵元服務規定」他	46	藤原用之助	佐賀市
	"	『沖縄朝日新聞』	1	油藤ふみ	高崎市
	"	通貨交換証 他	14	川平和子	那霸市
	"	日章旗	1	ヨシコ・カーベンター	米国
	"	川平朝令氏から高嶺朝教あて書簡	1	川平朝	那霸市
	"	『冬休みの友』他	3	與那嶺剛	南風原町
	"	『沖縄郷土史年表』他	2	福田経子	米国
	"	牛島軍司令官銘入・短刀鞘	1	上原助	糸満市
民俗資料	カマンタ 他		13	当間	石川市
	巻尺 他		6	福地健	那霸市
	厨子カメ(御殿型) 他		3	三鹿ベロ・豊口絵	那霸市
	ジュラルミン製やかん		1	平長	沖縄市
	ジュラルミン製やかん 他		8	吉戸清	那霸市
	アルミ製鍋(木蓋付き) 他		3	宮戸慎明	那霸市
	藁びん 他		20	翁長男	那霸市
	海ディール(徳利型) 他		2	前田満	金武町
	やなぎごうり		1	新垣ミツ	南風原町
	ジュラルミン製シチリン 他		2	伊志嶺敏	那霸市
	ヒーフチ(火吹竹) 他		4	嶺嶺正	那霸市
	飼料たらい 他		5	石宇幸	那霸市
	ワリジケ網		1	宇地和夫	城辺町
	ミニカー 他		29	上江洲均	名護市

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
民俗資料	シーサーガウガウ	2	瑞慶山 隆	平良市
"	ホタルかご	3	瑞慶山 春	平良市
"	ドラエモンの面 他	16	博物館 友の会	那霸市
"	衣装箱 他	2	武富 香都	那霸市
"	米軍払い下げ品利用のルーペ	1	島良 袋徳	糸満市
"	米軍葉きょう	2	島上 間正一	那霸市
"	琉球人形 他	19	伊藤 勝	糸満市
"	体重計	2	コザ 保健所	読谷村
"	厨子カメ	1	仲田 弘民	沖縄市
"	ジュラルミン製USひしゃく	1	宮城 あん彰	那霸市
"	火鉢(素焼) 他	3	中山 正彦	宜野湾市
"	骨壺	1	中山 あや子	豊見城村
"	栗田文子藁算コレクション	157	栗黒 島直昭	神奈川県
"	勤王流女踊之冠 他	7	仲嶺真栄・俊子	石垣市
"	上焼ツノ型厨子甕 他	3	比嘉 春子	名護市
"	ジュラルミン製羽釜 他	3	崎浜 千枝	那霸市
"	芭蕉経縞上衣 他	1	新垣 光子	本部町
"	木綿灰色地緯縞文様上衣	1		那霸市

### 購入の部

分類	品名	数量	備考
自然史	ミヤコノロジカ骨格レプリカ	1	委託料で作製
	ヨシゴイ(本剥製)	1	
	ダイシャクシギ(本剥製)	1	
	キョウジョンギ(本剥製)	1	
	コノハズク(本剥製)	1	
	チョウゲンボウ(本剥製)	1	
	ミゾゴイ(本剥製)	1	
	パン(本剥製)	1	
	ヤンバルクイナ(本剥製)	1	
	ハイイロミズナギドリ	1	
	アマミヤマシギ(ヒナ)	1	
	アマミヤマシギ(ヒナ)	1	
美術工芸	兼城昌興画「山水図」	1	
	朱漆吉祥沈金飾棚	1	
	絹黄色地繻子織に刺繡裂 他	7	
歴史資料	「那覇地図」	1	
	氷冷却冷蔵庫	1	
	子供の玩具/昔話絵本	1	
	子供服	1	
	軍服	1	
	浮世絵	1	
	浮世絵	1	
	かわら版新聞	1	
	電球	5	

## 4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成6年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍 〃	お も ろ さ う し 混 効 驗 集	22冊 2冊	昭48. 6. 6 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工 芸 〃	銅 鐘 (旧 首里城正殿鐘) 梵 鐘 (旧 円覚寺殿前鐘)	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
〃	梵 鐘 (旧 円覚寺殿中鐘)	3口	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 円 覚 寺 樓 鐘)				

県指定文化財（有形文化財）

平成6年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻 〃	木 彫 円覚寺白象並びに趣意書 世 持 橋 勾 欄 羽 目	1軸 1枚 1括	昭33. 3. 14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵 画 〃	絹本著色花鳥図(殷元良筆) 紙本著色雪中雉子の図(殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本著色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	〃	〃	〃
工 芸 〃	三 線 江 戸 与 那 聞 得 大 君 御 殿 雲 龍 黃 金 簪 庫	1挺	昭33. 8. 15	県立博物館	沖縄県
〃	黒 塗 螺 鈿 遊 雁 絵 大 文 庫	1本	昭33. 3. 14	〃	〃
〃	黒 塗 堆 錦 山 水 絵 大 文 庫	1台	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	黒 塗 螺 鈿 雲 龍 文 内 金 箔 蓋 付	3口	〃	〃	〃
〃	枝 梅 竹 文 赤 魚 絵 梶 盤	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線 影 染 文 付 魚 文 盤	〃	〃	〃	〃
〃	色 象 嵌 栗 絵 菊 花 盤	〃	〃	〃	〃
〃	色 嵌 色 差 面 取 抱 瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 靈 応 寺 鐘)	1口	昭60. 6. 1	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 普 門 禅 寺 鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 天 竜 精 舍 鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 天 尊 御 宮 鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 天 妃 現 鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠(旧 波 上 宮 朝 鮮 鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 大 安 禅 寺 鐘)	1枚	昭63. 1. 12	〃	〃
〃	黑 漆 薔 蔔 堆 錦 軸 盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黑 漆 山 水 横 閣 人 物 螺 鈿 机	1脚	〃	〃	〃
〃	朱 漆 山 水 横 閣 人 物 箔 絹 丸 型 東 道 盆	1合	〃	〃	〃
〃	朱 漆 巴 紋 牡 丹 沈 金 大 御 供 飯	1口	〃	〃	〃
〃	白 密 陀 山 水 横 閣 人 物 漆 絹 箔 絹 角 盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵 鐘 (旧 永 福 寺 鐘)	1口	〃	〃	〃
〃	三 線 盛 嶋 開 鐘	1挺附胴	平6. 3. 15	〃	〃
典 籍 〃	評定所格護定本 中 山 世 鑑 〃 中 山 世 譜	6冊 19冊	昭31. 12. 14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
書 跡 〃	程 順 則 の 書 扁額「徳高」鄭元偉書	1巻	昭42. 4. 11	県立博物館	沖縄県
〃	扁額「凌雲」林麟焔書	1架	平元. 9. 29	〃	〃
古 文 書 〃	宮古島下地の首里大屋への辞令書 明孝宗より琉球國中山王尚真への勅書	1幅	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	伊平屋島仲田の首里大屋への辞令書	1巻	昭49. 11. 11	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
歴 史 資 料	安 国 山 樹 花 木 之 記 碑	1基	平元. 9. 20	県立博物館	沖縄県

## 5 博物館収蔵資料整理事業の概要

### 1. 収蔵資料整理事業の目的と経過

県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として50年の歴史を持ち、現在72,763点（平成7年3月31日現在）の資料が収蔵されている。その間には合併と移転、さらには祖国復帰等による機構改革などにより、収蔵資料の整理・登録等の作業に統一性が十分図られていない点がいくつかあった。したがって、平成12年度の新館移転するための作業の一環として、統一性をもった収蔵資料の整理・整頓作業を早急に行い、収蔵資料の未登録や移動にもれがないような効率的な移転作業を行うための準備作業としてすすめられてきた。

また、収蔵資料台帳による収蔵資料管理業務を整理し、台帳の電子化（コンピュータ化）作業を進めることで、利用に応じた収蔵資料一覧の作成、資料検索用端末の設置等を整備し、県民のサービス向上やニーズに対応することを目的にその整備が図られてきた。このことは、充実した収蔵資料の画像情報（図版、写真、映像等）により、博物館の収蔵資料を広く来館者に公開するためのデータベースの充実・向上を目指し、情報の共有化と種々の情報ネットワークの形成のための準備段階でもある。

本事業は平成6年度からスタートし、平成9年度までの事業計画であるが、今年度はその2年目にあたる。

### 2. 収蔵資料整理事業の内容

資料整理事業は次の3つの作業分野に分けて実施してきた。

#### （1）収蔵資料整理作業

収蔵資料の台帳整理・照合・未登録資料の整理登録、整理・整頓作業

収蔵資料へのナンバーリング等

#### （2）台帳電子化（コンピュータ化）作業

データベースシステムの開発・導入

収蔵資料データ入力

#### （3）写真撮影及び写真整理作業

収蔵資料の撮影

写真・フィルムの整理・保管

### 3. 事業実績

事業実績を年度別に概略的にまとめた。

「平成6年度事業実績」（予算額：24,893千円）

#### （1）資料整理作業

収蔵資料台帳の整理カードの統一（台帳項目の統一）と各分野収蔵資料の整理（台帳照合及び未登録資料の整理等）がなされた。

#### （2）台帳電子化（コンピューター化）作業

収蔵資料管理用データベースシステムの構築（ハード・ソフトの整備）を行い、収蔵資料管理用データベースソフトとして、「マック・ミュージアム」を採用・導入した。

### (3) 写真撮影

収蔵資料写真撮影用照明セット購入し、利用や貸し出し頻度の高い重要資料（特に美術・工芸品等）については、写真撮影を委託して実施した。この写真画像は、収蔵資料管理用データベースに取り込んで保存し、資料検索に利用できるようにした。

### 「平成7年度事業実績」（予算額：25,209千円）

#### (1) 資料整理作業

各収蔵資料の整理・整頓（台帳照合及び未登録資料の整理等）を行い、特に民俗資料である「厨子甕」の実測図作成等整理作業を委託して実施した。

#### (2) 台帳電子化（コンピューター化）作業

構築された収蔵資料管理用データベースシステムの試用と点検を行い、収蔵資料に関するデータの蓄積とその他ハードウェアの増設を行った。

#### (3) 写真撮影

前年度に引き続き、利用や貸し出し頻度の高い重要資料（特に歴史・民俗等）については、写真撮影を委託して実施した。この写真画像は、収蔵資料管理用データベースに取り込んで保存した。また、一部収蔵古写真の複製・整理・パネル作成作業を委託して行った。

備考：平成8年度以降もこのような作業を中心に継続して事業を行う予定である。

## VIII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
年間行事案内	定期	10,000	A4三折り	当年度の行事案内
年間ポスター	定期	1,000	B2	当年度の行事案内
日本文リーフレット	定期	10,000	A4三折り	当館の展示内容を紹介
英文リーフレット	定期	10,000	A4三折り	当館の展示内容を紹介
韓国語リーフレット	定期	10,000	A4三折り	当館の展示内容を紹介
中国語リーフレット	定期	10,000	A4三折り	当館の展示内容を紹介
スペイン語リーフレット	定期	10,000	A4三折り	当館の展示内容を紹介
平成6年度 新収蔵品展図録	定期	1,000	B5(12)	1994年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された新収蔵品を紹介する企画展の図録
平成6年度沖縄県立博物館 年報	定期	800	B5(79)	前年度の当館の活動状況や概要
太平洋戦争・沖縄戦終結50周年事業 特別展「甦る沖縄」図録	不定期	1,000	変B5(243)	沖縄戦終結50周年を記念して行われた特別展の展示物について解説した図録
特別展「甦る沖縄」関連英文 リーフレット 「CAN YOU HELP? HELP US RECOVER OKINAWA'S CULTURAL ASSETS!」	不定期	1,000	A4	沖縄戦終結50周年を記念して開催された特別展で展示する海外から戻ってきた文化財の紹介と海外に所在する文化財の寄贈・返環を呼びかける冊子
移動博物館リーフレット	不定期	1,000	B5(4)	渡嘉敷村及び国頭村で開催された移動博で展示する展示物を紹介したリーフレット
移動博物館チラシ	不定期	2,000	B5(1)	渡嘉敷村及び国頭村で開催された移動博を案内したチラシ
沖縄県博物館紀要 第22号	定期	1,000	B5(241)	学芸員の調査研究報告書
博物館教育普及書 「沖縄の帰化動物」 (海をこえてきた生き物)	不定期	1,000	A4(88)	沖縄で帰化している動物について、図版やイラスト、写真等を使って解説した教育普及書
平成7年度こども体験教室	不定期	1,000	B5(109)	平成7年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習のまとめ
沖縄県立博物館だより N0-38	定期	1,000	B5(4)	当館の行事等を紹介する広報誌
教育普及書 発見!発見!大発見! 博物館探検コース	不定期	500	B5(24)	博物館の常設展示物について、探検しながら学習をすすめられるようなワークシート
平成8年度 特別展「大久米島」ポスター	不定期	2,000	B2	特別展の案内ポスター
平成8年度 特別展「大久米島展」チラシ	不定期	20,000	A4	特別展の広報チラシ

## VIII その他の活動

### 1 資料貸出

- (1) 展示会名：日本文化のあけばの  
主 催：国立歴史民俗博物館  
開催場所：国立歴史民俗博物館  
貸出期間：平成7年4月1日～平成8年3月31日  
貸出資料：考古資料／市来式土器
- (2) 展示会名：「洋画の展望—具象表現を中心にして」  
主 催：福井県立美術館  
開催場所：福井県立美術館  
貸出期間：平成7年4月13日～6月20日  
貸出資料：美術工芸資料／三栖右嗣作「海の家族」
- (3) 展示会名：「沖縄の工芸美術」展  
主 催：奈良県立美術館・長野県信濃美術館・千葉県立美術館  
開催場所：奈良県立美術館・長野県信濃美術館・千葉県立美術館  
貸出期間：平成7年6月20日～10月20日  
貸出資料：美術工芸資料103件
- (4) 展示会名：特別企画展「対外交流史 縄文～自然とともに生きた人々」  
主 催：福岡市博物館  
開催場所：福岡市博物館  
貸出期間：平成7年9月11日～11月22日  
貸出資料：考古資料／荻堂式土器壺他 11点
- (5) 展示会名：「わたしたちの50年」  
主 催：那覇市  
開催場所：那覇市民ギャラリー  
貸出期間：平成7年10月5日～10月17日  
貸出資料：歴史資料／沖縄民政府看板他 4点
- (6) 展示会名：琉球切手原画展  
主 催：沖縄郵趣連盟  
開催場所：那覇東郵便局  
貸出期間：平成7年11月25日～26日  
貸出資料：絵画資料／琉球切手原画 8点
- (7) 展示会名：沖縄の離島における民俗芸能  
主 催：日本トランスオーシャン航空  
開催場所：日本トランスオーシャン航空  
貸出期間：平成8年1月10日～2月2日  
貸出資料：写真パネル

## 2 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財およびこれまでに購入・寄贈ならびに収集活動で得た文化財や資料が約7万点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を行っている。

平成7年度は12月11日から12月15日までの期間をあてて実施した。地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、徳高篇額、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除をおこなった。

## 3 沖縄県立博物館協議会

日 時 平成8年3月8日（金）11：00～17：00

場 所 沖縄県立博物館会議室

### 1. 会議事項

- (1) 予算の概要について
- (2) 特別展等事業概要について
- (3) 教育普及事業等概要について
- (4) 新館建設事業について

### 2. その他

沖縄県立博物館協議会委員名簿

（平成6年6月1日～平成8年5月31日）

	氏 名	所 属	職 名
学 職 経 験 者	翁 長 自 修	琉球大学教育学部（美術工芸）	教 授
	新城 和 治	琉球大学教育学部（自然史）	教 授
	金 城 正 篤	琉球大学法文学部（歴史）	教 授
	嵩 元 政 秀	沖縄考古学会（考古）	会 長
学校 教育 関係 者	前山田 任	城岳小学校	校 長
	蓮 天 富 三	今帰仁中学校	校 長
	安 室 肇	南部工業高等学校（H6.6.1～H7.5.31）	校 長
	山 内 昌 尚	美里工業高等学校（H7.6.1～H8.5.31）	校 長
社会 教育 関係 者	山 内 晴 子	沖縄県婦人連合会	理 事
	島 袋 光 尋	沖縄県PTA連合会	会 長
	新 城 紀 秀	沖縄県社会教育委員の会議	議 長

沖縄県立博物館協議会委員名簿  
(平成8年6月1日～平成10年5月31日)

	氏名	所属	職名
学職経験者	翁長自修	琉球大学教養部（美術工芸）	教授
	新城和治	(自然史)	
	金城正篤	琉球大学法文学部（歴史）	教授
	嵩元政秀	沖縄考古学会（考古）	会長
	上江洲均	名桜大学国際学部（民俗）	教授
学校教育関係者	仲田典爾	前島小学校	校長
	多和田眞勇	首里中学校	校長
社会教育関係者	山内晴子	沖縄県婦人連合会	理事
	島袋光尋	沖縄県PTA連合会	会長
	新城紀秀	沖縄県社会教育委員会議	議長

#### 4. 沖縄県博物館協会

平成7年度の総会および研修会は、7月21日（金）に浦添市ハーモニーセンターを主会場として開催された。北は今帰仁村歴史文化センターから南は宮古の平良市総合博物館と上野村農業資料館まで県内各市町村から31館64名の参加があり、総会から現地研修会、懇親会まで盛会裏に実施された。まず、総会では糸数兼治会長の開会の挨拶のあと、富本祐憲ハーモニーセンター所長の歓迎の挨拶があり、議事の審議に入った。議事として、平成6年度の事業報告・決算報告・平成7年度の事業計画案の審議・予算案の審議・新規加盟館の審議・新役員の選出の案件の提出等がなされ、全会一致で承認された。

総会終了後、台風の雨が降りしきる中、現地研修会は予定通り実施され、浦添市美術館・沖縄国際センター・佐喜眞美術館・宜野湾市教育委員会資料室を見学し、たいへん有意義な研修が行われた。さらに、6時からの懇親会は、台風接近のため会場を急遽居酒屋に変更してもたれたが、連絡不十分で参加者も少なく、たいへんご迷惑をかけた。

秋の研修会は、ミャークヅツに参加する関係で、例年と違って8月31日～9月1日の日程で上野村ドイツ村パレス館（1階ホール）を会場として行われた。糸数兼治会長の挨拶に続き、前里晃章上野村教育長の歓迎の挨拶、前沖博協理事（前平良市総合博物館長）の仲宗根將二氏への感謝状と記念品の贈呈が行われた。引き続き、上野村助役の西里秀徳氏による「ドイツ村構想」の報告がなされ、地域活性化に向けての真摯な取り組みの現状をひしひしと感じた。

講演は、最初に上野村農業資料館学芸員の岩井洋一氏による「ツマグロゼミの生態」で、宮古島を北限とするセミの生態についてスライドを通してわかりやすく説明がなされ、興味深い内容であった。次の講演は、平良市文化財保護審議会長の仲宗根將二氏による「宮古の歴史と

文化」で、沖縄との係わりも含めて幅広い観点から、長年研究されてきた豊富な知見を基に述べる歴史は聴衆を引きつけるものであった。その後、懇親会がもたれ、友好を温めつつ日頃の博物館業務の悩みを語ったりしながら翌日の現地研修会の鋭気を養った。

二日目は、上野村文化財保護審議会長の佐渡山安公氏をはじめ、仲宗根将二、砂川玄正、岩井洋一各氏等の案内で宮国元島・ツマグロゼミ増殖場・ピンザアブ・平良市総合博物館・四島の主の墓・狩俣遠見跡・祖神祭の座・池間の大主御嶽・池間遠見跡の見学を行い、その後四つのムトゥーに別れてミヤークヅツに参加し、ミルク酒を飲み、かつクイチャーを踊り、地域文化を直に体験でき、たいへん有意義な研修会であった。



ミヤークヅツでクイチャーを踊る人びと

## 5 博物館実習

県内の二つの大学では、現在、博物館学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは県内ではじめて沖縄国際大学に博物館学芸員養成に係る授業科目が開設され、さらに平成7年度には琉球大学でも同科目が開設されたので、両大学の依頼により本年度より琉球大学10名、沖縄国際大学12名の学生を受入れて博物館実習を行うことになった。

実施した実習科目と指導学芸員、および実習期間と実習生は下記の通りであった。

### 1、実習科目と指導学芸員

- ①博物館活動の概要について（大城将保）
- ②考古資料の理論と取扱実習（當眞嗣一）
- ③歴史資料の理論と取扱実習（萩尾俊章）
- ④自然史資料の理論と取扱実習（久貝勝盛、嵩原建二、瀬名波任）
- ⑤美術工芸資料の理論と取扱実習（津波古聰、與那嶺一子）
- ⑥民俗資料の理論と取扱実習（太田健一）
- ⑦近代絵画資料の理論と取扱実習（瑞慶山昇）
- ⑧教育普及活動について（前田真之、當眞嗣一）
- ⑨資料の受入れ・分類・登録・原簿記載について（與那嶺一子）
- ⑩保存科学と施設・整備について（吉里 功）
- ⑪常設展の開設実習（大城将保・上原敏子）
- ⑫展示作業の実習（全学芸員）

## 2、実習期間

○沖縄国際大学

平成7年8月7日(月)～8月18日(金)

○琉球大学

平成7年9月25日(月)～10月6日(金)

## 3、実習生

○沖縄国際大学

No.	実習生氏名	学部・学科
①	阿嘉嶺 三千代	沖国大文学部社会学科
②	新垣 栄子	〃
③	玉城 めぐみ	〃
④	仲栄真 貴子	〃
⑤	松本 健一	〃
⑥	屋我 美奈子	〃
⑦	久貝 典子	〃
⑧	上原 清乃	〃
⑨	崎山 みゆき	〃
⑩	大城 崇	〃 法学部1部法学科
⑪	安谷屋 法恵	〃 過程等履修生
⑫	仲間 留美	〃

○琉球大学

No.	実習生氏名	学部・学科
①	比嘉 明子	法文学部社会学科
②	堀之内 伸一	法文学部史学科
③	土田 明日香	法文学部社会学科卒
④	比嘉 志津代	法文学部社会学科卒
⑤	西里 潤	法文学部史学科卒
⑥	野間 一博	教育学部小学教員養成
⑦	知念 幸子	教育学部中学教員養成
⑧	玉井 綾子	理学部海洋学科
⑨	前川 考治	理学部生物学科
⑩	佐々木 健志	農学部大学院修士卒

## 6 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから16年目を迎えた。その間会員も増加の傾向にあり、友の会の活動も年間をとおしての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。1995年度決算報告書による実績は、9,253,424円であった。また会員は656名、賛助会員9名、準会員が16名（『博友』第10号による）となっている。

1996年5月20日（月）には1995年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動が開始した。

1995年度に実施した活動の概要と事業内容は次のとおりである。

### 1. 事業

#### (1) 首里城周辺めぐり（6月10日）

雨のため、首里城周辺の説明を本館講堂で宮里朝光氏が行う。

参加者：22名

#### (2) 今帰仁村歴史文化センター見学（6月18日）

當眞嗣一教育普及課長の説明により、今帰仁周辺および今帰仁村歴史文化センターの見学を実施した。

参加者：48名

#### (3) 離島めぐり（7月8日～7月9日）

當眞嗣一教育普及課長の説明により久米島の研修旅行を実施した。

参加者：29名

#### (4) 海外研修旅行（8月22日～8月30日）

望月雅彦氏の案内により、マレーシア、サラワクの研修旅行を実施した。

参加者：25名

#### (5) ヤンバルの自然と文化財めぐり（9月10日）

新城安哲氏の説明により、ヤンバルめぐりを実施した。

参加者：26名

#### (6) 那覇市内の史跡めぐり（9月30日）

阿波根直孝氏の説明により、那覇市内の史跡めぐりを実施した。

参加者：33名

#### (7) 県外研修旅行（10月13日～10月16日）

當眞嗣一教育普及課長の説明および永留久恵氏の案内により、対馬の研修旅行を実施した。

参加者：29名

#### (8) 南部の史跡めぐり（10月29日）

當眞嗣一教育普及課長の説明により、知念・玉城周辺の史跡めぐりを実施した。

参加者：46名

#### (9) 首里城周辺めぐり（11月18日）

宮里朝光氏の説明により、首里城周辺（久場川）の史跡めぐりを実施した。

参加者：29名

- (10) グスクめぐり（12月10日）  
野村宏、与儀達憲両氏の説明により、中部の安谷屋などのグスクめぐりを実施した。  
参加者：48名
- (11) 首里城見学会（1月22日）  
古塚達朗氏の説明により、首里城を見学した。  
参加者：27名
- (13) 展示室解説会（2月8日）  
瀬名波任、久貝勝盛両氏の説明により、自然史展示室の解説会を実施した。  
参加者：13名
- (14) 探鳥会（3月17日）  
久貝勝盛氏の説明により、探鳥会を漫湖で実施した。  
参加者：13名

## 2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業および催し物案内状発想
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

## 3. 博物館への援助活動

図書の寄贈（10万円相当）

## 4. 会誌「博友」・会報「赤い瓦」の発行

## 5. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売サービス

## 6. その他

- サークル活動：歴史サークル、グスクサークル、自然サークル、拓本サークル、民俗サークル
- 他府県友の会との交流：3月10日（日）岩手県立博物館友の会メンバーと交流会を行った。
- 総会及び懇親会（1995年5月22日） 参加者：67名
- 新年会（1995年1月22日） 参加者：101名

## X 日誌抄

(平成 7 年 4 月～平成 8 年 3 月)

平成 7 年

- 4 月 21 日 塚越則男 沖縄振興開発金融公庫・理事長他 2 名来館
- 4 月 25 日 第 1 回特別展推進委員会
- 4 月 26 日 特別展展示委員会嘱状交付及び第 1 回特別展展示委員会
- 5 月 10 日 平成 6 年度定期会計監査 11 日まで
- 5 月 16 日 坂井知志 国立科学博物館教育部企画課・課長来館
- 5 月 16 日 第 2 回特別展展示委員会
- 5 月 23 日 第 2 回特別展推進委員会
- 5 月 29 日 平成 7 年度九州博物館協議会「理事会・総会」(長崎県)
- 6 月 1 日 平成 7 年度博物館職員講習会(国立教育会館社会教育研究所)
- 6 月 2 日 平成 6 年度定期委員監査
- 6 月 9 日 第 3 回特別展拡大推進委員会
- 6 月 16 日 ヴァレリー・フリー ビショップ博物館・コレクション・マネージャー  
ポーリン・スギノ ホノルル美術アカデミー・キュ레이ター  
ジョン・ハーカス ロサンゼルス郡美術館・コンサバター 来館
- 6 月 20 日 沢城安和 北米沖縄県人会・会長  
阿部一雄 (マイケル・K・アベ) ハワイ沖縄県人連合会・会長  
福田経子 華道池坊・教授 (ハワイ在) 来館
- 6 月 20 日 特別展「甦る沖縄・戦災文化財と生活資料展」オープン
- 6 月 24 日 門奈直樹 立教大学・教授来館
- 6 月 28 日 安藤 憲 財ポーラ伝統文化振興財団・理事長来館
- 6 月 28 日 ロイ与那原良永 マウイ沖縄文化会館・専務理事来館
- 7 月 4 日 牛川喜幸 長岡造形大学・教授来館
- 7 月 7 日 多和田眞一郎 広島大学・教授来館
- 7 月 12 日 福山圭一 沖縄開発庁振興局振興四課・課長来館
- 7 月 14 日 木村清一 国立沖縄青年の家・所長  
加藤雅晴 川村女子大学・教授来館
- 7 月 18 日 加藤 修 水産庁西海区水産研究所・農学博士来館
- 7 月 18 日 21世紀のための友情計画 ブータン・モルジブ教員一行(15名) 来館
- 7 月 27 日 第 3 回特別展展示委員会
- 7 月 30 日 平成 7 年度文部省主催洋上研修団一行(447名) 来館 前期
- 7 月 30 日 ラウラ・ゴーマン ビショップ博物館・修復保存部長  
サンナ・ドウイッチ ホノルル美術アカデミー・資料記録係  
マウリン・ラッセル ロサンゼルス郡美術館・修復保存係来館
- 8 月 4 日 第 4 回特別展展示委員会
- 8 月 7 日 平成 7 年度文部省主催洋上研修団一行(461名) 来館 後期
- 8 月 14 日 長谷川善和 横浜国立大学名誉教授来館

- 8月15日 企画展「平成6年度新収蔵品展」オープン 9月3日まで
- 8月18日 小林照雄 エルマイラ大学(ニューヨーク在)副学長他1名来館
- 8月28日 沖縄空手・古武道世界大会プレ大会(太平洋戦争・沖縄戦終結50周年事業)  
「県立博物館及び空手顕彰碑等視察」選手役員団一行(515名)来館
- 9月7日 宜蘭縣交流展準備調査団出発
- 10月5日 中国第一歴史档案館70周年記念式典出席及びセミナー参加のため  
糸数館長出発 13日まで
- 10月12日 森 成吉 千葉県立美術館・館長他1名来館
- 10月24日 七五三掛哲郎 日本芸術文化振興会基金部・振興助成第二課長他1名来館
- 10月25日 片桐 裕 沖縄県警察本部・部長来館
- 10月27日 葛西森夫 宮城県教育委員長(東北大学名誉教授)来館
- 11月2日 第77回九州市長会一行来館(175人)
- 11月4日 平成7年度九州国立博物館誘致のための文化講演会  
「琉球考古学からの視点」田中 琢(奈良国立文化財研究所 所長)  
「沖縄の食文化の道」宮城昌保(沖縄大学 講師)
- 11月10日 山本正男 長野県立信濃美術館・館長来館
- 11月25日 野添宰男(財日本生命財団事業助成部・部長来館)
- 12月7日 任式楠 中国社会科学院考古研究所・所長来館
- 12月20日 佐藤 弘 財団法人岩手県文化振興事業団・副理事長来館
- 平成8年**
- 1月17日 佐久間和夫・大海恵二郎・中村清 衆議院文教委員会調査室・調査員来館
- 1月25日 平成7年度県立博物館消防訓練
- 2月20日 水田慶子 奈良県立美術館・館長他2人来館
- 2月23日 栗田文子 日本民俗学会・日本民具学会・会員 来館
- 3月7日 坂本一道 東京芸術大学 教授 芸術資料館長 来館
- 3月8日 平成7年度沖縄県博物館協議会
- 3月9日 李徳安 中国新華社通信社 高級記者 来館
- 3月10日 佐藤 宏 岩手県立博物館友の会 会長他40人来館
- 3月10日 小宅庸夫 前アンゼンチキン国駐在大使夫妻来館
- 3月15日 大島清次 世田谷美術館 館長来館
- 3月23日 宜蘭縣交流展準備調査団出発(第二次)

# X 関係法規抄録

○博物館法（昭和26・12・1）  
法律第285号

〔最近改正〕 平成3・4・2 法律第25号

## 第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、美術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
- 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する第一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- 9 他の博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学校又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目的単位を修得したもの
  - 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目的単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
  - 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

## 第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
  - 2 名称
  - 3 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
  - 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しな

ければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

**第13条** 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

**第14条** 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならぬ。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

- 2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当っては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えなければならない。
- 3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

**第15条** 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

**第16条** この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の業務)

**第17条** 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

### 第3章 公立博物館

(設置)

**第18条** 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

**第19条** 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

**第20条** 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

- 2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

**第21条** 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

**第22条** 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物

館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

**第23条** 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

**第24条** 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

**第25条 削除**

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

**第26条** 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。

2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

## 第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

**第27条** 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

**第28条** 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

## 第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

**第29条** 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣が、他の施設にあたっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

## 附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 (昭和27年3月20日)  
(政令第47号)

最近改正 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例 (昭和47年5月15日) (抄)  
(条例第24号)

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣 旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

氏 名	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日）（抄）  
（教育委員会規則第2号）

最終改正 平成元年6月30日教育委員会規則第7号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関すること。

(2) 公印の管守に関すること。

(3) 施設設備の管理に関すること。

(4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。

(5) 博物館協議会に関すること。

(6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

(1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。

(2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。

(3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。

(4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

(1) 博物館資料の利用相談に関すること。

(2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。

(3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日）  
（教育委員会規則第13号）

最終改正 平成7年5月2日教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（管理の責任）

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

（諸帳簿）

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現状を明らかにしておかなければならぬ。

（施設設備の亡失）

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

（警備防災の計画）

**第5条** 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

- 2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。  
(当直)

**第6条** 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

- 2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

**第7条** 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

**第8条** 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

**第9条** 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

**第10条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日  
(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）  
(3) 慰霊の日 6月23日  
(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで  
(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで  
(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

**第11条** 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書を（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

**第12条** 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

**第13条** 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

**第14条** 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

**第15条** 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

**第16条** 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

**第16条の2** 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規程により入館料を

免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合
  - (2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合
  - (3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合
- 2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書(第4号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。  
(入館の禁止等)

**第17条** 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者
- (2) めいてい、疾病等により他人に迷惑をかけるおそれがある者
- (3) その他館長が適当でないと認める者  
(施設使用の許可等)

**第18条** 博物館施設(講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。)を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書(第5号様式)を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

**第19条** 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならぬ。

(損害の賠償)

**第20条** 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

**第21条** 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

**第22条** この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

## 附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成元年3月31日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則(平成4年8月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則(平成5年2月16日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

附則(平成7年5月2日教育委員会規則9号)

この規則は、平成7年5月2日から施行する。

## 第1号様式（第11条関係）

## 第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
住 所	氏 名
記	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、愛領されるよう申込みます。	
1 種 別	2 作者名
3 作品名	4 製作年月日
5 附属品	6 資料の所在地
7 時価見積額	8 寄贈の理由

受 諸 書	平成 年 月 日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料について ては、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員 会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
沖縄県立博物館長	記

博物館資料寄託申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
住 所	氏 名
記	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託ください るよう申請します。	
1 種 別	2 作者名
3 作品名	4 製作年月日
5 附属品	6 資料の所在地
7 寄託期間	8 年月日

## 第3号様式（第11条関係）

## 第4号様式（第16条の2関係）

博物館資料寄託承認書	
平成 年 月 日	殿
沖縄県立博物館長 記 印	
平成 年 月 日	殿
沖縄県立博物館長 記 印	
平成 年 月 日付け申請のあつた博物館の寄託については、下記により受託します。	
1 種別	年 月 日から
2 作者名	年 月 日まで
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 受託期間	
備考	

入館料免除申請書	
平成 年 月 日	申請者住所
沖縄県立博物館長 殿	氏名
	電話
下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2第2項に基づき申請します。	
1 入館者 団体名	引率者名
2 入館者数 人	記
3 入館日時 年 月 日 ( 曜日 )	時～ 時
4 申請理由	
年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。	
年 月 日	沖縄県立博物館長 印

第5号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名 \_\_\_\_\_ 印

電話 \_\_\_\_\_

下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。

記

1 使用者

団体名 \_\_\_\_\_ 及び  
代表者名 \_\_\_\_\_ 印 職業( )  
住所 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_

2 使用目的

3 使用する施設： 1 ホール 2 臨時陳列室

4 使用する日時及び期間

自：平成 年 月 日 午 時 分 ( )

至：平成 年 月 日 午 時 分 日間

5 予定参加人員 人

6 その他必要な資料（プログラム等）

許 可 書

月 日付申請の( ) 使用の件、申請どおり許可します。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長



○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）  
（教育委員会規則第29号）

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

（委員）

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

（任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

（会議）

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（費用弁償）

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

（庶務）

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

（雑則）

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはまって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日）  
（条例 第37号）

最終改正 平成元年3月31日条例第22号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規程に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

（使用料の徴収）

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を越えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

（使用料の納期）

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料)

(第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

別表第2 (体育施設の使用料) (第2条関係) —省略

沖縄県立博物館

沖縄県立博物館年報 No.29

1996年7月25日 発行

編集・発行 沖縄県立博物館  
住所 〒903 那覇市首里大中町1-1  
TEL:098-884-2243  
FAX:098-886-4353

印 刷 (株)南西印刷  
住 所 〒903 那覇市首里石嶺町1-127  
TEL:098-884-4321  
FAX:098-884-4386

## 沖縄県立博物館行事案内●平成8年度

### ■特別展

大久米島展・・・・・・・・・・・・ 7月30日（火）～9月1日（日）

### ■企画展

新収蔵品展・・・・・・・・・・・・ 10月22日（火）～11月24日（日）

### ■移動博

第20回移動博物館～久米島～・・・・・・・・・・・・ 9月20日（金）～9月22日（日）

### ■博物館文化講座

グスクめぐり～中城～・・・・・・・・・・・・ 4月20日（土）

干潟の鳥の観察・・・・・・・・・・・・ 5月18日（土）

波照間のことば・・・・・・・・・・・・ 7月13日（土）

久米島～しぜん・ひと・ものを語る～・・・・・・・・ 8月17日（土）

結びについて～算盤を中心～・・・・・・・・ 10月26日（土）

星座観察会・・・・・・・・・・・・ 11月9日（土）

沖縄県の博物館50年史・・・・・・・・・・・・ 12月14日（土）

歴史の道を歩く・・・・・・・・・・・・ 1月18日（土）

収蔵資料解説会～厨子甕を中心～・・・・・・・・ 2月15日（土）

収蔵資料解説会～紅型の型紙を中心～・・・・・・・・ 3月15日（土）

### ■夏休み「歩く、見る、作る」教室（定員あり）

親子でスケッチをしよう・・・・・・・・・・・・ 8月18日（日）

カーサムーチーを作ろう・・・・・・・・・・・・ 8月25日（日）

### ■子ども体験学習教室（定員あり）

川をさぐろう・・・・・・・・ 5月11日（土）／5月25日（土）／6月8日（土）

グスクをたずねて・・・・・・・・ 7月13日（土）／7月27日（土）／8月10日（土）

ふうたんをつくろう・・・・・・・・ 9月14日（土）／10月12日（土）／11月9日（土）

わら算をつくろう・・・・・・・・ 12月14日（土）／1月11日（土）／1月25日（土）

### ■博物館シアター

映画：アニメシリーズ・・・・・・・・・・・・ 7月21日（日）

映画：アニメシリーズ・・・・・・・・・・・・ 8月11日（日）

映画：アニメシリーズ・・・・・・・・・・・・ 8月24日（土）

映画：青い鳳・・・・・・・・・・・・ 11月2日（土）

映画：子供たちの王様・・・・・・・・・・・・ 11月16日（土）

映画：哀愁花火・・・・・・・・・・・・ 12月15日（日）